

中期目標期間（平成26年度～平成29年度）

地方独立行政法人広島市立病院機構の業務実績に係る評価結果

平成30年8月

広島市

地方独立行政法人広島市立病院機構 中期目標期間における業務の実績に関する評価について

1 評価方法

市長は、法人から提出された中期目標の期間における業務の実績を明らかにした報告書に記載されている大項目に係る「項目別評価」及び項目別評価を踏まえた報告事項全般に係る「全体評価」により評価を実施する。

2 項目別評価

(1) 法人による大項目に係る自己評価

市長は、次表のとおり、法人に年度評価の結果を踏まえ、5段階による自己評価を行わせるとともに、その結果及び評価理由並びに特筆すべき事項を記載した報告書を提出させる。

評価の記号	実施状況の説明
5	中期目標を大幅に上回り、特に評価すべき達成状況にある。
4	中期目標を達成した。
3	中期目標を概ね達成した。
2	中期目標を十分達成できていない。
1	中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項があった。

(2) 市長による評価

法人から提出された報告書により、中期目標の期間における中期目標の達成状況を調査し、分析した上で、次表のとおり、大項目ごとに5段階により評定し、評価結果報告書に記載する。

評価の記号	実施状況の説明
5	中期目標を大幅に上回り、特に評価すべき達成状況にある。
4	中期目標を達成した。
3	中期目標を概ね達成した。
2	中期目標を十分達成できていない。
1	中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項があった。

3 全体評価

(1) 評価方法

大項目ごとの評価点を、当該大項目の評価点の配分比率の割合に乗じて得た評価点の合計に基づき評定するとともに、その評定結果及び特筆すべき事項等を評価結果報告書に記載する。

(2) 大項目評価点の配分比率

大項目の評価点の配分比率の割合は、次表のとおりとする。

中期目標の区分	大項目	評価点の配分比率の割合	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	1 市立病院として担うべき医療	32%	32%
	2 医療の質の向上	8%	
	3 患者の視点に立った医療の提供	8%	
	4 地域の医療機関等との連携	8%	
	5 市立病院間の連携の強化	4%	
	6 保健医療福祉行政への協力	4%	
第2 業務運営の改善及び効率化	1 業務運営体制の確立	4%	32%
	2 人材の確保、育成	8%	
	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し	4%	
	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	4%	
	5 外部評価等の活用	4%	
第3 財務内容の改善	経営の安定化の推進	8%	
第4 その他重要事項	安佐市民病棟の建替えと医療機能の拡充	4%	4%
評価点の合計		5点満点(100%)	

(3) 評定基準

全体評価の評定は5段階とし、その基準は次表のとおりとする。

評価の基準	評価の記号及びコメント	
4.5 < X	S	法人の業務は、中期目標を大幅に上回り、特に評価すべき達成状況にある。
3.5 < X ≤ 4.5	A	法人の業務は、中期目標を達成した。
2.5 < X ≤ 3.5	B	法人の業務は、中期目標を概ね達成した。
1.5 < X ≤ 2.5	C	法人の業務は、中期目標を十分達成できていない。
X ≤ 1.5	D	法人の業務には、中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項があった。

(注) Xは、全体評価における評価方法により導いた評価点(大項目評価点×配分比率の割合(%))の合計

地方独立行政法人広島市立病院機構 中期目標期間の業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

B：法人の業務は、中期目標を概ね達成した。

評価コメント

地方独立行政法人へ移行した平成26年度から平成29年度までの4か年度を期間とする第1期中期目標期間の業務実績に係る評価を行うため、本市では、法人の業務実施状況や自己評価についてのヒアリングを実施するとともに、広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会から本市の評価に対する意見聴取を行った。

業務実績評価においては、中期目標に掲げる取組のうち、「市立病院として担うべき医療」を重視することとし、広島市民病院は救急患者の受入体制の強化や周産期医療における看護体制の強化、安佐市民病院は県北西部地域の医療機関への医師の派遣等によるへき地医療の支援、舟入市民病院は小児救急医療や小児専門医療の提供、リハビリテーション病院は365日リハビリテーション医療の提供などを有用な実績として評価した。

法人全体では、地域医療構想の実現に向けて、地域包括ケアシステムの構築に当たって必要な地域の医療機関等との連携が強化されていることや、地域医療構想実現の重要な柱となる安佐市民病院の建替えに関し、荒下地区に整備する新安佐市民病院（仮称）の基本設計が完了し、現在の北館に整備する病院の医療機能や整備計画に係る本市や安佐医師会との協議が順調に進んでいること、また、自律的かつ機動的な病院運営を実現する業務運営体制の整備、とりわけ、医師、看護師等の医療職の確保や人材育成に向けた取組が進んでいることを評価した。

一方、財務面では、法人設立の初年度は黒字を計上したものの、2年目以降は赤字が続いている。こうした中で、経営改善に向けた様々な取組により、最終年度の赤字額は大幅に減少しているが、赤字解消には至らなかったことから、経常収支の黒字化に向けて、より一層の経営改善に取り組む必要がある。

以上を総括し、本市が行った第1期中期目標期間の業務実績評価は、前述のとおり「中期目標を概ね達成した。」との結論に至ったものであるが、引き続き、地方独立行政法人の特長を最大限に生かし、第2期中期目標に向けて、より一層質の高い医療を提供するとともに、患者サービスの向上を図り、将来を見据えた病院運営を行うことを期待する。

業務運営等に関する改善事項等について

業務運営等に関する個別・具体的な事項について、改善その他必要な措置を講ずることを命ずる点はない。

なお、市立病院に求められる役割を果たす上で考慮すべきものとして、次の意見を申し添える。

- ・ 平成34年春の開設を予定している新安佐市民病院（仮称）については、関係する医療機関とのネットワーク化に取り組みながら、県北西部地域等の拠点病院としての役割が果たせるような医療提供体制の構築を目指すべきであること。
- ・ 今後とも市民に信頼される質の高い医療を継続的、安定的に提供していくため、病院間の人事交流の更なる拡充をはじめとした市立病院間の連携強化を図るとともに、経常収支の黒字化に向けたより一層の経営改善が欠かせないものであること。
- ・ 今後、更なる高齢化の進展や医療需要の変化に的確に対応していくため、市立4病院が、それぞれに病院の特徴を生かしながら、地域の医療機関等とのより一層の連携を図り、地域医療構想の実現に向けた取組を更に進めることが重要であること。

全体評価（評点）

中期目標の区分	大項目	評価点の配分比率 a	大項目評価点 b	評価の基準 a × b	評価の記号 (全体評価)
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	1 市立病院として担うべき医療	32%	3	0.96	B
	2 医療の質の向上	8%	3	0.24	
	3 患者の視点に立った医療の提供	8%	3	0.24	
	4 地域の医療機関等との連携	8%	4	0.32	
	5 市立病院間の連携の強化	4%	4	0.16	
	6 保健医療福祉行政への協力	4%	4	0.16	
第2 業務運営の改善及び効率化	1 業務運営体制の確立	4%	4	0.16	
	2 人材の確保、育成	8%	4	0.32	
	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し	4%	4	0.16	
	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり	4%	4	0.16	
	5 外部評価等の活用	4%	4	0.16	
第3 財務内容の改善	経営の安定化の推進	8%	2	0.16	
第4 その他重要事項	安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	4%	4	0.16	
評価点の合計		(100%)		3.36	

※ 全体評価の評定は5段階とし、その基準は次表のとおりである。

評価の基準	評価の記号及びコメント	
4. $5 < X$	S	法人の業務は、中期目標を大幅に上回り、特に評価すべき達成状況にある。
3. $5 < X \leq 4.5$	A	法人の業務は、中期目標を達成した。
2. $5 < X \leq 3.5$	B	法人の業務は、中期目標を概ね達成した。
1. $5 < X \leq 2.5$	C	法人の業務は、中期目標を十分達成できていない。
$X \leq 1.5$	D	法人の業務には、中期目標を大幅に下回っている又は重大な改善すべき事項があった。

(注) Xは、全体評価における評価方法により導いた評価点（大項目評価点×配分比率の割合（%））の合計

項目別評価（大項目）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目	達成状況（評価理由）																								
1 市立病院として担うべき医療	広島市の意見	<p>広島市民病院は救急患者の受入体制の強化や周産期医療における看護体制の強化、安佐市民病院は県北西部地域の医療機関への医師の派遣等によるへき地医療の支援、舟入市民病院は小児救急医療や小児専門医療の提供、リハビリテーション病院は365日リハビリテーション医療の提供などを有用な実績として評価した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	3	3	3	3	3	
年度評価結果				中期目標期間評価																					
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																				
4	3	3	3	3	3																				
<p>（広島市民病院） 総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供した。</p> <p>救急医療については、医師、薬剤師、看護師等の増員やICU（集中治療室）内にHCU（高度治療室）4床の併設などにより、救急患者の受入体制の強化を図るとともに、救急医療コントロール機能病院として、支援病院と連携し、受入困難事案の特定患者の受入れを行うなど、一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供した。</p> <p>がん診療については、高精度放射線治療システム（リニアック）の更新や診療放射線技師の増員などにより、放射線科の診療体制の充実を図るとともに、がん診療相談室の設置など相談機能の充実・強化を図った。</p> <p>周産期医療については、NICU（新生児集中治療室）とGCU（新生児治療回復室）の病棟分割や看護師の配置基準の見直し等を行い、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児の医療など総合的で高度な周産期医療を提供した。</p> <p>災害医療については、災害時に備え、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保し、平成26年8月20日の豪雨災害や平成28年熊本地震の際にはDMATチームや医療救護班を迅速に派遣した。</p> <p>（安佐市民病院） 広島市の北部だけでなく、市域、県域を越えた北部地域の総合的で高水準な診療機能を有する中核病院として、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供した。</p> <p>救急医療については、医療相談員（MSW）や中央処置室の看護師の増員などによる救急患者受入体制の強化を図るとともに、総合診療科医師の常駐する時間帯の延長や当直医師の増員などを行い、北部地域における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供した。</p> <p>がん診療については、PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）の活用や、放射線治療計画用X線CT装置（CTシミュレーター）の更新などにより、がんの早期発見、転移や再発について精度の高い診断を行うとともに、患者の精神的、肉体的ストレスの軽減や被ばく線量の低減を図った。</p> <p>災害医療については、災害時に備え、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保し、平成26年8月20日の豪雨災害や平成28年熊本地震の際にはDMATチームや医療救護班を迅速に派遣した。へき地医療については、へき地診療所等への医師派遣や、北部地域の医療従事者に対する研修などを行った。</p> <p>（舟入市民病院） 小児救急医療について外来看護師の増員によるトリアージ体制の強化や、市立病院間の応援体制を整えるとともに、医師会、広島大学等の協力を得て24時間365日体制で小児救急医療の提供を行った。</p> <p>感染症医療の提供については、第二種感染症医療機関としての運営体制を維持しつつ、感染症病床数の見直しや機能強化のための改修工事を行った。また、舟入市民病院のあり方検討委員会での検討結果を踏まえ、循環器内科の創設等を行った。</p>																									

(リハビリテーション病院)
 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のため一貫したリハビリテーションサービスを提供した。

また、理学療法士等を増員し、365日切れ目なくリハビリテーション医療を提供する体制の充実を図った。

患者が退院後に、地域で療養や生活が維持できるよう、入院早期からの退院支援を行うとともに、言語外来リハビリテーション機能の充実や新たに訪問リハビリテーション及び訪問看護を実施した。

さらに、自立訓練施設については、利用者の拡大を図るため、訓練内容の充実を図るとともに、地域の医療機関や関係機関との連携強化に取り組んだ。

2 医療の質の向上

広島市の意見

研修の充実や、資格取得の促進による認定看護師数の増加、診療科の再編等による診療体制の充実など、医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するための取組を着実に進めていることを評価した。

医療の標準化に向けた取組については、クリニカルパスの活用拡大に努めたが、広島市民病院及び安佐市民病院において目標値に届かなかったことから、引き続き医療の標準化の推進に向けた取組に期待したい。

医療安全管理体制の強化を図り、市民に信頼される安全な医療の提供に努めたことを評価した。

年度評価結果				中期目標期間評価	
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
4	3	3	3	3	3

医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応するため、研修の充実を図るとともに、認定看護師資格など必要とされる資格取得の促進や診療科の再編等を行った。各病院においては、内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の導入や高精度放射線治療システム（リニアック）の更新など、医療水準の維持向上につながる医療機器の計画的な整備・更新を行った。

良質な医療を効率的かつ安全・適正に提供するため、クリニカルパスの活用拡大に努めるとともに、診断技術や治療の多様化・複雑化に対応するため、チーム医療の推進に取り組んだ。

市民に信頼される安全な医療を提供するため、各病院ともリスクマネージャーの配置や、情報共有のための会議の開催などにより、医療安全管理体制の確保に努めた。

3 患者の視点に立った医療の提供

広島市の意見

ホームページに掲載する情報の充実を図るなど、患者等が病院を選択する上で必要な情報の提供に努めている。

医療支援センター等における職員の増員や、入院支援室等の開設による相談機能の強化により、多くの患者の利便性の向上を図ったことを評価した。

患者満足度調査については、リハビリテーション病院を除き目標値を下回ったものの、患者ニーズに対応した改善に努めたことを評価した。

年度評価結果				中期目標期間評価	
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
4	3	2	3	3	3

法人化に伴い、市立病院機構独自のホームページの作成や各病院のホームページのリニューアルを行うとともに、患者等が病院を選択する上で必要な情報提供をホームページを通じて行った。

各病院の医療支援センター及び医療相談室の職員の増員を行い、疾病や治療に関する相談をはじめ、医療費の負担等の生活上の問題、退院後の療養や介護支援など様々な相談に応じられる体制の強化を図った。

また、アンケート調査を行い、病院の待ち時間や給食に関する要望などの実態把握を行い、その改善に努めた。

4 地域の医療機関等との連携	広島市の意見	地域の医療機関や医師会との連携を強化し、患者紹介・逆紹介の促進に取り組んだことを評価した。 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用や、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会の開催による地域の医療機関への支援、福祉機関等との連携の推進などを着実に実施したことを評価した。	年度評価結果				中期目標期間評価	
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
			4	4	4	4	4	4
<p>病院ごとに地区の医師会との意見交換の場を設置するなど地域の医療機関との連携を深め、患者紹介・逆紹介の促進に取り組み、地域の医療機関との適切な役割分担を進めた。</p> <p>地域の医療水準の向上を図ることを目的として、病院が保有する高度医療機器の共同利用や開放型病床の利用促進について働き掛けを行った。各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養や介護などの支援を行った。</p>								
5 市立病院間の連携の強化	広島市の意見	経営会議の開催や、各病院間が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合う取組を評価した。 また、医療総合情報システムの更新を計画どおり実施し、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を進めたことを評価した。	年度評価結果				中期目標期間評価	
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
			4	4	4	4	4	4
<p>毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長・総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。</p> <p>一つの病院群としての病院運営を推進するため、広島市民病院と舟入市民病院の連携、リハビリテーション病院と広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化により、急性期の疾病治療から回復期のリハビリテーションまでの連続的・一体的な提供を行った。</p> <p>職種ごとに各病院の責任者が病院の枠を越えて現状と課題について協議する場として部門会議を開催するとともに、職員の適性等を生かした各病院の活性化を図るため、病院間の異動を行った。</p> <p>平成27年度に更新等を実施した4病院の病院総合情報システムにおいて、電子カルテを中心としたシステムの円滑な運用を行うとともに、4病院間の円滑な情報伝達、共有化を実施した。</p>								
6 保健医療福祉行政への協力	広島市の意見	広島市民病院における自殺未遂者支援コーディネーターの採用や、舟入市民病院における重症心身障害児(者)の受入れなど、本市が実施する事業への協力が図られている。 また、災害時においては、本市からの要請に応じて、医療救護活動を着実に実施したことなどを評価した。	年度評価結果				中期目標期間評価	
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
			4	4	4	4	4	4
<p>広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。</p> <p>平成26年8月20日の豪雨災害発生時に、広島市からの求めに応じて、広島市民病院、安佐市民病院及び舟入市民病院で医療救護班を編成し、日中の避難所の巡回や夜間の避難所への常駐を行うとともに、平成28年熊本地震の際には、広島市民病院及び安佐市民病院の医療救護班を、現地に派遣した。</p>								

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目	達成状況（評価理由）																							
<p>1 業務運営体制の確立</p>	<p>広島市の意見</p>	<p>理事会における迅速な意思決定や、毎月開催している経営会議において、主要な課題等について協議を行うなど、自律的、機動的な病院運営に取り組んだ。 また、本部事務局への看護総合アドバイザーの配置や、病院勤務経験のある事務職員の採用などによる事務室の機能強化を図るための取組を評価した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	4	4	4	4	4
年度評価結果				中期目標期間評価																				
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																			
4	4	4	4	4	4																			
<p>理事会において、法人の方針決定や目標達成に向けた迅速な意思決定を行うとともに、毎月、各病院長等が出席する経営会議において、主要な課題等について、協議及び検討を行うなど、理事会を中心とした組織体制を整備した。</p> <p>病院の経営や経営改善の企画立案を行い、安定した経営基盤を構築するため、広島市民病院及び安佐市民病院に企画課を、本部事務局財務課に経営企画係を新設した。</p>																								
<p>2 人材の確保、育成</p>	<p>広島市の意見</p>	<p>医療職の定員増や嘱託・臨時職員の正規職員への切替え等により、診療・看護体制の充実や医療スタッフの負担軽減を図ったことを評価した。 通常の試験とは別に経験者を対象とした年度中途の採用試験を実施するなど、法人化のメリットを生かした人材の確保に取り組むとともに、本市からの派遣職員を法人採用職員に段階的に切り替えたことを評価した。 病院間の人事交流については、人材育成による運営体制の強化にもつながることから、積極的な取組を期待する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	4	4	4	4	4
年度評価結果				中期目標期間評価																				
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																			
4	4	4	4	4	4																			
<p>診療体制を強化するため、医師、看護師をはじめとする医療スタッフの増員及び嘱託・臨時職員の正規職員への切替えを順次行い、人材の確保を図った。</p> <p>看護師については、中途退職者や産育休取得者、育児短時間勤務者の増加による実働者数の不足に対応するため、通常の採用試験とは別に必要に応じ、年度中途に採用試験及び追加募集を実施した。医療技術職についても、年度当初の欠員を解消するため、年度中途に採用試験を実施した。</p> <p>法人化後、最初の2年間は、病院勤務経験のあるプロパー事務職員を採用した。3年目以降も計画的にプロパー事務職員を採用し、広島市からの派遣職員を法人採用職員に段階的に切り替えた。平成29年度には、広島市民病院の医事課長として、医事業務の管理職として民間病院での経験のある者を採用した。また、プロパー事務職員の専門性の向上を図るため、研修体系について検討を行った。</p> <p>医療スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、各病院で院内研修の充実や各種学会、研修会への参加促進に取り組むとともに、認定看護師等の資格取得を促進した。</p>																								

大項目	達成状況（評価理由）																														
<p>3 弾力的な予算の執行、組織の見直し</p>	<p>広島市の意見</p>	<p>長期・複合契約の対象範囲の拡大や価格交渉落札方式の導入など、多様な契約手法により、調達コストの削減を図ったことを評価した。 施設整備については、本部事務局に各病院の施設整備を行う部署を設置し、中長期病院施設整備計画（長寿命化計画）を策定するとともに、CM方式を活用することで、各病院の施設整備を適切かつ迅速に行うための体制を整備したことを評価した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	2	4	4	4	4	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	中期目標期間評価		法人の自己評価	市長の評価	4	4
年度評価結果				中期目標期間評価																											
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																										
4	2	4	4	4	4																										
中期目標期間評価																															
法人の自己評価	市長の評価																														
4	4																														
<p>事業の進捗や病院の実情に応じて、医療機器等を前倒しで購入する等弾力的な予算執行を行った。 また、予算編成においては、各病院長の意見を反映させて、医療機器整備計画を病院の実態や必要性に応じて見直した。 契約方式の一つである価格交渉落札方式を実施したことにより、購入価格低減を図り、平成27年度からは、対象とする医療機器の範囲を3千万円以上から2千万円以上に拡大するなど、地方独立行政法人制度の利点を生かした弾力的な予算執行を行い、及び多様な契約手法の導入を進めた。 法人化に伴い、各病院の施設整備を行う部署として、本部事務局に「施設整備課」を設置した。</p>																															
<p>4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり</p>	<p>広島市の意見</p>	<p>各病院の組織規模及び業務分担に応じたポストの増設や、勤務実態に応じた手当の新設など、職員が責任と意欲を持って働くことのできる制度の構築を評価した。 また、病棟の看護師の負担軽減を目的とした業務員による介助業務の実施や院内保育の充実など、ワーク・ライフ・バランスの推進について評価した。 職員のストレスチェックにより、職員のメンタル状況を把握するとともに、職場環境の改善に役立てることを期待する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	4	4	4	4	4	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	中期目標期間評価		法人の自己評価	市長の評価	4	4
年度評価結果				中期目標期間評価																											
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																										
4	4	4	4	4	4																										
中期目標期間評価																															
法人の自己評価	市長の評価																														
4	4																														
<p>組織規模及び業務分担に応じたポストの増設、勤務実態に応じた手当の創設など、職員の職責を明確化し、意欲的に働くことのできる人事・給与制度への見直しを行った。 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成27年12月から業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始し、業務員を介助業務員に順次移行した。 リハビリテーション病院では、重症患者の受入体制を強化するため、段階的に嘱託職員である病棟介護士の正規職員化及びその拡充に努めた。</p>																															
<p>5 外部評価等の活用</p>	<p>広島市の意見</p>	<p>会計監査人及び監事による監査に加え、本部事務局職員による内部監査（自主監査）を実施するなど着実な取組を評価した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">年度評価結果</th> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				年度評価結果				中期目標期間評価		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価	4	4	4	4	4	4	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">中期目標期間評価</th> </tr> <tr> <th>法人の自己評価</th> <th>市長の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	中期目標期間評価		法人の自己評価	市長の評価	4	4
年度評価結果				中期目標期間評価																											
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価																										
4	4	4	4	4	4																										
中期目標期間評価																															
法人の自己評価	市長の評価																														
4	4																														
<p>会計監査人による、病院の医薬品等の棚卸の立会い、財務諸表等の決算に係る審査等を行った。 監事監査規程に基づき、監事による4病院の実地監査及び書類監査を計画的に行った。</p>																															

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

大項目	達成状況（評価理由）							
経営の安定化の推進	広島市の意見	<p>経費の削減については、多様な契約手法の導入等により、調達コストの削減に取り組んでいる。また、後発医薬品の利用について、リハビリテーション病院を除いた3病院で目標値を上回っており、後発医薬品の採用拡大の取組が進んでいる。</p> <p>収入の確保については、診療報酬改定に関する調査等を行い、施設基準取得のための取組を進めた。</p> <p>こうした取組により、平成27年度に赤字に転じた経常収支は改善されつつあるが、3年連続の赤字となっていることから、経常収支の黒字化に向けた経営改善に取り組む必要がある。</p>	年度評価結果				中期目標期間評価	
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
			4	2	2	2	2	2
<p>経費の削減に向けて、一部の医療機器等の購入及び運用・保守業務について長期・複合契約により一括発注するとともに、価格交渉落札方式による調達の推進や規格の統一などスケールメリットを生かした価格交渉も行った。また、医薬品については、関係部署が共同しての価格交渉や後発医薬品への切替えの推進、診療材料については、保険適用区分ごとにまとめた価格交渉及び償還差益の大きな品目への切替えの推進などを行った。</p> <p>収入の確保に向けては、診療報酬制度の改定に対応した適正な施設基準取得並びに請求漏れ及び査定減の縮減に努めた。</p>								

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

大項目	達成状況（評価理由）							
安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充	広島市の意見	<p>安佐市民病院の建替えについては、本市と連携し、地元説明会で住民理解を得ながら進めていることや、荒下地区に整備する新安佐市民病院（仮称）の基本設計を完了させるとともに、現在の北館に整備する病院の医療機能や整備計画について、本市や安佐医師会と協議を重ねるなど順調に建替えを進めていることを評価した。</p> <p>平成34年春の開院に向けて、引き続き、事業の円滑な推進に努めていただきたい。</p>	年度評価結果				中期目標期間評価	
			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	法人の自己評価	市長の評価
			4	4	4	4	4	4
<p>建替え方針について広島市と連携して検討し、広島市において平成27年9月に、高度で先進的な医療機能等を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館に整備する機能分化整備方針が決定された。</p> <p>この機能分化整備方針を受けて、平成28年度に安佐市民病院整備室を設置し、執行体制の強化を図り、荒下地区に整備する病院については、同年度に基本計画を策定し、平成29年度に基本設計を完了させた。また、現在の北館に整備する病院については、広島市からの要請により安佐医師会が設置・運営することになったことを受け、広島市や安佐医師会と協議しながら病院の医療機能や整備計画について検討を行った。</p>								

項目別状況（小項目）

<p>第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。</p> <p>(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院</p>
--

<p>中期目標</p>	<p>総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供すること。安佐市民病院は、広島市の北部だけでなく、市域、県域を越えた北部地域の中核病院としての機能の拡充を図ること。</p> <p>ア 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を提供するとともに、広島市が進める救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は二次救急医療機関であるが、北部地域の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療の提供を行うこと。</p> <p>イ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績を生かし、引き続きがん診療機能の充実を図ること。広島市民病院は、平成27年度開設予定の「高精度放射線治療センター（仮称）」において、広島大学病院等と連携して放射線治療に関する医療水準の向上に取り組むこと。</p> <p>ウ 広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や新生児への周産期医療を提供すること。</p> <p>エ 災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制の確保を図ること。</p> <p>オ 安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市域、県域を越えた北部地域の中核病院として、北部地域医療機関に対する医師の派遣や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。</p>
-------------	--

<p>中期計画</p>	<p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(1) 広島市民病院</p> <p>総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供します。</p> <p>ア 救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院として、本格的な運営に取り組みます。 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 医師、薬剤師、看護師の増員等により、救急患者の受入体制を強化します。 	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
4	3	3	3							

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的で高水準な診療機能を有する広島市の中核病院として、一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供した。 ○ 救急医療コントロール病院として、支援病院と連携して、救急患者の受入れを行うとともに、24時間救急患者の手術に対応するため、看護師を増員した。 ○ 救急患者の受入体制の強化を図るため、平成29年10月、ICU内にHCU4床を併設した。 ○ 夜間急病センターでの診療待ち時間を表示するなど、同センターとの連携を図った。 ○ 医師、薬剤師、看護師等を増員し、救急患者の受入体制の強化を図った。 	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>(救急外来からの入院患者数と支援病院等への救急転院患者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>救急外来からの入院患者数</th> <th>支援病院等への救急転院患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td style="text-align: center;">3,737人</td> <td style="text-align: center;">746人</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td style="text-align: center;">3,783人</td> <td style="text-align: center;">682人</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td style="text-align: center;">3,917人</td> <td style="text-align: center;">673人</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td style="text-align: center;">4,130人</td> <td style="text-align: center;">585人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	救急外来からの入院患者数	支援病院等への救急転院患者数	26	3,737人	746人	27	3,783人	682人	28	3,917人	673人	29	4,130人	585人
年度	救急外来からの入院患者数	支援病院等への救急転院患者数														
26	3,737人	746人														
27	3,783人	682人														
28	3,917人	673人														
29	4,130人	585人														

中期計画	<p>イ がん診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を生かし、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療を行います。 ・がんに関する様々な情報を病院内の医療情報サロンやホームページ等で提供するとともに、患者やその家族が定期的に情報交換・交流できる場を提供します。 ・平成27年度開設予定の「高精度放射線治療センター（仮称）」へ医療スタッフを派遣するとともに、当該センターと連携して質の高い医療を提供します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、カンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療を実施した。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のカンサーボードを行った。 ○ 医療情報サロンやホームページでがんに関する様々な情報を提供するとともに、同サロンにおいて、毎月、院内の医師や外部講師を招へいして、患者とその家族の集いを開催した。 ○ 医療支援センター内のがん診療相談室において、がん患者やその家族の様々な相談に応じるとともに、スタッフを増員し、相談機能の充実・強化を図った。 ○ 平成27年10月に開設した広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）の要員として、平成27年度から診療放射線技師1名を派遣するとともに、広島市民病院等から患者紹介を行った。 ○ 高精度放射線治療システム（リニアック）を更新し、平成28年10月から運用を開始した。 	<p>関連指標</p> <p><参考実績> （広島市民病院からHIPRACへの患者紹介）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">年度</th> <th style="text-align: center;">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">27</td> <td style="text-align: center;">17人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">28</td> <td style="text-align: center;">59人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">61人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人数	27	17人	28	59人	29	61人
年度	人数								
27	17人								
28	59人								
29	61人								

中期計画	<p>ウ 周産期医療の提供</p> <p>総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <p>○ 新生児部門は、NICU（新生児集中治療室）9床、GCU（新生児治療回復室）24床で運営し、産科部門は、一般病床36床で運営し、総合的な周産期医療を提供した。</p> <p>○ 看護師を増員し、GCUの看護体制の強化を図った。</p>	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>（新生児部門及び産科部門の受入状況）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新生児部門（人）</th> <th>産科部門（件）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>380</td> <td>969</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>359</td> <td>995</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>325</td> <td>1,013</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>374</td> <td>1,003</td> </tr> </tbody> </table>	年度	新生児部門（人）	産科部門（件）	26	380	969	27	359	995	28	325	1,013	29	374	1,003
年度	新生児部門（人）	産科部門（件）														
26	380	969														
27	359	995														
28	325	1,013														
29	374	1,003														

中期計画	<p>エ 災害医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <p>○ 災害時に備え、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。</p> <p>○ 平成26年8月20日の豪雨災害発生時には広島県からの要請に基づき、DMATチームを派遣した。また、広島市からの要請により、医療救護班を避難所へ派遣（10回）するとともに、夜間も医師を避難所へ常駐させた。</p> <p>○ 平成28年熊本地震の際は、広島県からの要請により、DMATチームを派遣し、現地での医療活動に従事した。</p> <p>○ 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を行った。</p>

中期計画	<p>オ 低侵襲手術等の拡充</p> <p>内視鏡手術をはじめとした患者の身体的負担が少ない低侵襲手術等を拡充します。特に、内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】	<p>○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成24年9月設置）の活用など、患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を推進した。</p>	関連指標																																										
		<p><参考実績></p> <p>(内視鏡手術等件数) (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡手術</td> <td>963</td> <td>995</td> <td>1,791</td> <td>1,934</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内視鏡的 治療 (ESD)</td> <td>食道</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>41</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>249</td> <td>243</td> <td>237</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>47</td> <td>84</td> <td>62</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>326</td> <td>364</td> <td>340</td> <td>403</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内視鏡下手術) (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術（ダヴィンチ）</td> <td>134</td> <td>144</td> <td>149</td> <td>112</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	内視鏡手術	963	995	1,791	1,934	内視鏡的 治療 (ESD)	食道	30	37	41	51	胃	249	243	237	264	大腸	47	84	62	88	計	326	364	340	403	区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	内視鏡下手術（ダヴィンチ）	134	144
区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																								
内視鏡手術	963	995	1,791	1,934																																								
内視鏡的 治療 (ESD)	食道	30	37	41	51																																							
	胃	249	243	237	264																																							
	大腸	47	84	62	88																																							
	計	326	364	340	403																																							
区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																								
内視鏡下手術（ダヴィンチ）	134	144	149	112																																								

中期計画	<p>カ 専門外来の実施</p> <p>各分野の専門医師や認定看護師等による緩和ケア外来、女性外来など医療ニーズに対応した専門外来を引き続き実施します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】	<p>○ 専門医師による緩和ケア外来診療を行うとともに、女性の多様な医療ニーズに対応するため、女性外来を行った。</p>	関連指標																
		<p><参考実績></p> <p>(緩和ケア外来の受診状況) (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初 診</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>72</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>再 診</td> <td>495</td> <td>825</td> <td>830</td> <td>542</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	初 診	55	53	72	50	再 診	495	825
区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度														
初 診	55	53	72	50														
再 診	495	825	830	542														

中期計画	<p>キ 手術室の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の身体的負担が少なく、より効果的、効率的な手術を行うため、カテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリッド手術室を整備します。 手術件数の増加に対応するため、手術室等の増設を行います。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	4	4

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度にハイブリッド手術室の整備を行うとともに、手術件数の増加に対応するため、手術室の増設及び医療スタッフの増員を行った。 平成27年にTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設の認定を受け、運用を開始した。 	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>（ハイブリッド手術室等の状況）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th colspan="4">手術件数</th> </tr> <tr> <th>以前</th> <th>以降</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室</td> <td>—</td> <td>1室</td> <td>—</td> <td>234件</td> <td>320件</td> <td>391件</td> </tr> <tr> <td>一般手術室</td> <td>12室</td> <td>15室 (うち内視鏡手術1室)</td> <td>8,718件</td> <td>8,863件</td> <td>8,981件</td> <td>9,344件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12室</td> <td>16室</td> <td>8,718件</td> <td>9,097件</td> <td>9,301件</td> <td>9,735件</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>TAVI 実施実績</td> <td>9例</td> <td>41例</td> <td>59例</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成26年度	平成27年度	手術件数				以前	以降	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	ハイブリッド手術室	—	1室	—	234件	320件	391件	一般手術室	12室	15室 (うち内視鏡手術1室)	8,718件	8,863件	8,981件	9,344件	計	12室	16室	8,718件	9,097件	9,301件	9,735件	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	TAVI 実施実績	9例	41例	59例
区分	平成26年度		平成27年度	手術件数																																							
	以前	以降	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																					
ハイブリッド手術室	—	1室	—	234件	320件	391件																																					
一般手術室	12室	15室 (うち内視鏡手術1室)	8,718件	8,863件	8,981件	9,344件																																					
計	12室	16室	8,718件	9,097件	9,301件	9,735件																																					
区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度																																								
TAVI 実施実績	9例	41例	59例																																								

中期計画	<p>ク CEセンターの設置</p> <p>臨床工学技士（CE）の増員とセンターの設置により、高度で専門的な医療機器の管理の集約化を図るとともに、各部門で医療機器の操作を行う臨床工学技士間の連携を強化します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<p>○ 平成26年度に人工腎臓センターの透析業務、手術室の人工心肺業務、医療機器の保守管理業務等を所掌するCEセンターを設置し、同センターを統括する技師長を配置した。</p> <p>○ ハイブリッド手術室の整備にあわせ、24時間対応できるよう、臨床検査技師を増員し、当直体制を整備した。</p>

中期計画	<p>ケ 病棟薬剤業務の充実</p> <p>入院患者への服薬指導、副作用等の管理を行う専任の薬剤師を病棟に配置し、医療安全の推進及び薬物療法の質の向上、医師及び看護師の負担軽減を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	2	3	3

【主な取組】	<p>○ 病棟における服薬指導の充実を図るため、全ての病棟に専任の薬剤師を配置することを計画的に進めた（平成26年度～平成29年度）。</p>	関連指標			
		<参考実績>			
		区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	薬剤師の増員状況	5名	3名	7名	5名

中期計画	<p>コ 看護体制の充実</p> <p>病棟夜勤看護師の増員等により、病棟看護体制の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 年度中途の採用試験を実施するなど、看護師確保に努めるとともに、育児短時間勤務看護師を夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。
- 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成28年5月から、業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始した。

中期計画	<p>サ 医療機器の計画的な整備・更新</p> <p>今後の疾病動向や新たな医療機器の機能、医療機器の耐用年数などを考慮して、計画的な医療機器の整備・更新を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- より微細な血管や浸潤部分の鮮明画像が抽出でき、より高度で適切な治療が可能となる3テスラの「磁気共鳴装置（MRI）」を更新した。
- 高精度放射線治療システム（リニアック）を更新し、平成28年10月から運用を開始した。

中期計画	<p>シ 中央棟設備の老朽化等への対応</p> <p>救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等の病院の中核機能が集中する中央棟は、築後20年を経過し、建物設備の老朽化、陳腐化が進行していることから、その対応について検討します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】

- 非常用照明電池や電話交換機、空調設備、給食センター等の改修を行った。
- 施設整備の老朽度の調査を行い、中長期病院施設設備改修計画（長寿命化計画）を策定した。

中期計画	<p>1 市立病院として担うべき医療 それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(2) 安佐市民病院 広島市の北部だけでなく市域、県域を越えた北部地域の総合的で高水準な診療機能を有する中核病院として、引き続き、救急医療など市民生活に不可欠な医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞などの治療を中心とした高度で先進的な医療を積極的に提供します。</p> <p>ア 救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部地域の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・ 医師、看護師の増員等により、救急患者の受入体制を強化します。また、トリアージ機能を充実させ、迅速、適切な救急処置を行います。 ・ 土日祝日の小児救急患者の受入体制や脳卒中による重篤な救急患者への対応の強化を図ります。 ・ 医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	3	4
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度						
4	3	3	4							

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北部地域における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供した。 ○ 医療相談員（MSW）を増員し、救急患者の相談機能の充実及び強化を図るとともに、看護師を増員し、トリアージ機能の充実を図った。 ○ 平成28年度に医師3名の当直体制を24時までは4名に増員するとともに、日勤時間帯についても総合診療科医師が常駐する体制を診療所からの紹介の多い19時まで延長することとし、救急患者の受入体制を強化した。 ○ 救急搬送された脳血管疾患患者の迅速かつ的確な治療を行うため、脳神経内科と脳神経外科を統合した脳神経センターを設置した。 ○ 一般社団法人安佐医師会が運営する可部夜間急病センターとの連携・協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めた。
--

中期計画	<p>イ がん診療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を生かし、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療を行います。 ・ PET-CT（陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）を活用し、がんの早期発見、転移や再発について精度の高い診断を行います。 ・ がんに関する様々な情報を病院内の医療患者サロン「すずらん」やホームページ等で提供するとともに、患者からの電話相談窓口を開設するなど、がん患者に対する相談支援体制を充実します。 	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度						
3	3	3	3							

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャンサーボードを毎週開催し、その中で、ガイドラインでは適応できない症例については院外専門家の意見を聴きながら、手術、化学療法及び放射線治療を適切に組み合わせた治療を実施した。 ○ PET-CTの活用や全身用マルチスライスCTシステムの更新等により、精度の高い診断を行った。 ○ がんサロンやホームページでがんに関する様々な情報を提供するとともに、同サロンにおいて毎月、患者等を対象とした研修会を開催した。 ○ 医療支援センター内のがん相談支援センターにおいて、がん患者やその家族の様々な相談に応じるとともに、スタッフの増員や電話相談窓口の設置などにより相談支援の充実を図った。
--

中期計画	<p>ウ 災害医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・DMATの派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 ○ 平成26年8月20日の豪雨災害発生時には、被災者の受入れを行うとともに、広島市からの要請により、医療救護班を派遣した。 ○ 平成28年熊本地震の際は、広島県からの要請により、DMATチームを派遣し、現地での医療活動に従事した。 ○ 看護師に公益社団法人広島県看護協会主催の講習を受講させ、災害支援ナースの登録を行った。

中期計画	<p>エ ヘき地医療の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部地域の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 ・北部地域の医療従事者に対する研修の場を提供し、知識の習得や技術の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	4	4

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 北広島町、安芸太田町及び邑南町（島根県）のへき地診療所等へ医師を派遣するとともに、安芸太田病院から依頼のあった読影を行った。 ○ 北部地域の医療従事者に研修及び交流の場を提供するため、安佐市民病院が事務局として運営している藝州北部ヘルスケアネットワークにおいて、研修会を開催した。 ○ 北部地域の病院が連携した広島中山間地病院連携地域医療研修プログラム「南斗六星研修ネットひろしま」により、研修医の受入体制を維持した。 ○ 平成29年2月、安佐市民病院を含む北部地域7医療機関で、随時、診療所等から当該病院への診療相談や医療機関合同のカンファレンスができるようWeb会議システムを導入するとともに、同システムを利用し、診療相談や合同研修会を開催した。

中期計画	<p>オ 低侵襲手術等の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡手術をはじめとした、患者の身体的負担が少ない低侵襲手術等を拡充します。 ・患者の身体的負担の少ない日帰り手術を推進します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	4

【主な取組】	<p>○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成27年12月設置）や顕微鏡下脊椎脊髄手術の実施などにより、患者の負担の少ない低侵襲手術を推進した。</p>	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>（内視鏡下手術等の状況）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術（ダヴィンチ）</td> <td>16</td> <td>104</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>顕微鏡下脊椎脊髄手術</td> <td>750</td> <td>749</td> <td>778</td> </tr> </tbody> </table> <p>（件）</p>	区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	内視鏡下手術（ダヴィンチ）	16	104	103	顕微鏡下脊椎脊髄手術	750	749	778
区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
内視鏡下手術（ダヴィンチ）	16	104	103											
顕微鏡下脊椎脊髄手術	750	749	778											

中期計画	<p>カ リハビリテーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中などの発症初期から実施する急性期リハビリテーションの充実を図ります。 ・在宅の心不全患者に対する効果的な心臓リハビリテーションや、発達障害等の小児言語療法、失語症及び構音障害の治療を行う言語療法リハビリテーションを引き続き実施します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各診療科と連携し、脳血管疾患、廃用症候群などに対する急性期リハビリテーションを実施した。また、がんやがんの治療により生じた障害等に対する二次障害を予防し、患者のQOL（生活の質）の向上を図った。 ○ 心臓リハビリテーション並びに発達障害等の小児言語療法、失語症及び構音障害の治療を行う言語療法リハビリテーションを実施した。

中期計画	<p>キ 専門外来の実施</p> <p>各分野の専門医師や認定看護師等によるストーマ外来（人工肛門や人工膀胱を装着している患者へのケア）、助産外来、もの忘れ外来など医療ニーズに対応した専門外来を引き続き実施し、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法等の専門外来の実施を検討します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	4	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 緩和ケア専任医師による緩和ケア外来を行うとともに、がん患者の指導・相談、ストーマ外来、助産外来、もの忘れ外来、心不全外来、リンパ浮腫外来等の専門外来を実施した。

中期計画	<p>ク 病棟薬剤業務の充実</p> <p>入院患者への服薬指導、副作用等の管理を行う専任の薬剤師を病棟に配置し、医療安全の推進及び薬物療法の質の向上、医師及び看護師の負担軽減を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
○ 専任の病棟薬剤師を配置し、病棟において充実した服薬指導を実施するとともに、医師及び看護師の負担軽減を図った。

中期計画	<p>ケ 看護体制の充実</p> <p>病棟夜勤看護師の増員等により、病棟看護体制の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
○ 年度中途の採用試験を実施するなど、看護師確保に努めるとともに、育児短時間勤務看護師を夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。
○ 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成28年6月から業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始し、7時から21時までを3シフトの勤務体制とし、身体ケアの介助ができるようにした。
○ 手術室における診療材料等のピッキング等を委託することにより、看護師の負担を軽減した。

中期計画	<p>コ 医療機器の計画的な整備・更新</p> <p>病院の建替えスケジュールを十分考慮し、計画的な医療機器の整備・更新を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 脳や心臓、腎臓のがん検査など臓器機能の確認検査を行う核医学診断装置を整備した。また、心拍数、血圧、心電図などの情報を継続的に測定し、及び記録する生体情報モニタリングシステムを更新した。 ○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を整備し、患者の負担の少ない低侵襲手術を推進した。 ○ 放射線治療計画用X線CT（CTシミュレーター）をより高性能なものに更新し、治療精度の向上と治療患者の精神的・肉体的ストレスの軽減を図った。 ○ 全身用マルチスライスCTシステムをより高画質で低被ばくなものに更新し、診断精度を向上させるとともに、患者及び術者の被ばく線量の低減を図った（稼働は平成29年4月から）。
--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。

(3) 舟入市民病院

<p>中期目標</p>	<p>小児科の24時間365日救急診療や年末年始救急診療等を行う初期及び二次救急医療機関、また、市内唯一の第二種感染症指定医療機関として、市民生活に不可欠な医療を提供すること。</p> <p>ア 小児救急医療拠点病院として、引き続き安定的な小児救急医療の提供に取り組むとともに、小児心療科等の小児専門医療を提供すること。</p> <p>イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。併せて、感染症法の改正による担当疾病の変更や受入患者数の大幅な減少を踏まえ、指定病床数を上回っている感染症病床数の見直しを行い、より機能的な病棟業務を行うための環境整備や病院全体の機能向上のために活用すること。</p> <p>ウ 病院機能の有効活用を図る観点から、広島市民病院との連携を強化することにより、双方が補完し合う関係を構築すること。</p>												
<p>中期計画</p>	<p>1 市立病院として担うべき医療</p> <p>それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。</p> <p>(3) 舟入市民病院</p> <p>小児救急医療拠点病院として、小児救急医療の安定的な提供に取り組むとともに、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者の受入体制を維持します。また、指定病床数を上回っている感染症病床数を見直し、感染症病棟の機能強化等を図るとともに、広島市民病院や地域の医療機関との連携を強化し、病院機能の向上に取り組めます。</p> <p>ア 小児救急医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組めます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携強化を図ります。 ・トリアージナースの増員や医療コンシェルジェの配置等により、診療体制の強化に取り組めます。 <table border="1" data-bbox="1489 726 2110 901" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）													
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度										
3	3	3	3										

【主な取組】

- 医師会、広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急を実施した。
- 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し、一方で三次救急医療機関からも主にインフルエンザ患者を積極的に受け入れるなどの連携を図った。
- 外来看護師を増員し、小児救急外来トリアージの体制強化を図るとともに、看護師がバイタルサイン等のデータを入力することで、緊急度の自動判定が可能となるトリアージシステムを運用し、円滑な診療を行った。

中期計画	<p>イ 小児専門医療の提供</p> <p>小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法により、不登校や摂食障害、神経症等に対する診療を行うとともに、小児皮膚科において、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	3	4	3	3	

<p>【主な取組】</p> <p>○ 小児心療科においては、不登校、神経症、摂食障害等思春期特有の症状を呈している子どもに対し、外来診療を行った。また、不登校の小中学生の対人交流を図ることを目的とした集団精神療法を開催した。</p> <p>○ 小児皮膚科においては、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。また、患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。</p>	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">平成26年度</th> <th style="text-align: center;">平成27年度</th> <th style="text-align: center;">平成28年度</th> <th style="text-align: center;">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集団精神療法</td> <td style="text-align: center;">23回</td> <td style="text-align: center;">21回</td> <td style="text-align: center;">23回</td> <td style="text-align: center;">24回</td> </tr> <tr> <td>延べ人数</td> <td style="text-align: center;">142人</td> <td style="text-align: center;">50人</td> <td style="text-align: center;">69人</td> <td style="text-align: center;">75人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	集団精神療法	23回	21回	23回	24回	延べ人数	142人	50人	69人	75人
区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度												
集団精神療法	23回	21回	23回	24回												
延べ人数	142人	50人	69人	75人												

中期計画	<p>ウ 感染症医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（SARS）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時の市立病院をはじめとする市内の関連病院との応援体制の確立を図ります。 ・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。 ・感染症法の改正による担当疾病の変更及び受入患者数の大幅な減少を踏まえ、指定病床数（16床）を上回っている感染症病床数（50床）を見直し、医療スタッフがより機能的・効率的に病棟業務に従事できるよう感染症病棟の機能強化のための整備を行うとともに、病院全体の機能向上のために活用します。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症病床を50床から16床に減床する一方で、第二種感染症指定医療機関としての運営体制は維持した。 ○ 感染制御認定薬剤師（BCPIC）の資格の取得又は更新をするため、感染制御認定薬剤師講習会へ職員が参加したほか、医師、薬剤師及び看護師が日本感染症学会学術講演会等に参加した。 ○ 感染症対策委員会において中東呼吸器症候群（MERS）対応のマニュアルの見直しを行った。 ○ 危険度が極めて高い二類の感染症等が発生した場合に備え、個室の拡張など感染症病棟の改修工事を行った。

中期計画	<p>エ 病院機能の有効活用</p> <p>広島市民病院をはじめとした地域の医療機関との連携強化に取り組み、病床や手術室の利用促進を図ります。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>72.9</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>手術件数 (件)</td> <td>599</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	病床利用率 (%)	72.9	80.0	手術件数 (件)	599	700	事業年度評価結果（小項目）			
		区分	平成24年度実績	平成29年度目標値										
病床利用率 (%)	72.9	80.0												
手術件数 (件)	599	700												
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度									
		3	2	3	2									

【主な取組】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。 ○ 診療科医師、看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整を行い、他の医療機関からの受入体制の強化を図った。 ○ 広島市民病院から手術患者の受入れを行い、手術室の利用促進を図った。 ○ 平成27年12月からの地域包括ケア病床の供用開始に伴い、理学療法士を増員し、リハビリテーション機能の充実を図った。 	<p>関連指標</p> <p><目標値に対する実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率 (%)</td> <td>78.8</td> <td>76.6</td> <td>82.9</td> <td>76.1</td> </tr> <tr> <td>手術件数 (件)</td> <td>637</td> <td>583</td> <td>666</td> <td>649</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率</p>	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	病床利用率 (%)	78.8	76.6	82.9	76.1	手術件数 (件)	637	583	666	649
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度													
病床利用率 (%)	78.8	76.6	82.9	76.1													
手術件数 (件)	637	583	666	649													

中期計画	<p>オ 病院の特徴として標榜できる診療の実施検討</p> <p>今後、病院の特徴として標榜できる診療の実施について検討します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部委員を含めたあり方検討委員会を設置し、職員の意見等も踏まえ医療環境の変化に対応した今後のあり方について議論を行い、小児救急や感染症病床を引き続き維持しつつ高齢化に対応した循環器内科の創設等の取組をまとめた。 ○ 健康管理センターを開設し、広島市民病院が行っていた人間ドックの健康診断業務を移管した。

中期計画	<p>カ 診療体制の充実</p> <p>病棟夜勤体制の充実や薬剤業務の強化などにより、診療体制の充実に図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 深夜勤務帯の配置を見直し、夜勤体制の強化を図るとともに、育児短時間勤務看護師も夜勤ローテーションに組み込むことにより、病棟夜勤体制の充実に努めた。 ○ 看護補助者の勤務時間を拡大し、7時から21時までを2シフトの勤務体制とし、身体ケアの介助を行った。また、業務量に応じた勤務部署の変更を行った。 ○ 4～6階病棟に専任の薬剤師を配置し、平成28年1月から病棟薬剤業務を実施した。

中期計画	<p>キ 医療安全機能の強化</p> <p>医療安全管理者（医療事故防止等の計画・管理・実行責任者）となる専任の看護師の配置等により、医療安全対策、院内感染対策等の充実を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 感染管理認定看護師を配置し、週1回、感染症対策チームによる院内ラウンドを実施した。
- 地域の医療機関との合同カンファレンスの開催、相互の院内ラウンドの実施による他病院の感染防止対策の把握などを通じ、感染防止対策の強化を図った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療
市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供すること。

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

中期目標

脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対する高度で専門的な医療及び訓練等の一貫したリハビリテーションサービスを提供すること。

ア リハビリテーション病院は、急性期医療を終えた患者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供すること。特に、広島市民病院、安佐市民病院との連携を強化し、急性期の疾病治療・リハビリテーションから回復期のリハビリテーションが、連続的、一体的に提供できるようにすること。

イ 自立訓練施設は、リハビリテーション病院退院者の受入れなど病院との連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活の再構築のための訓練等を行うこと。

ウ リハビリテーション病院及び自立訓練施設は、利用者の様々な相談に応じるとともに、地域の医療・保健・福祉機関と連携して、退院・退所後の生活を支援すること。また、同一施設内の広島市身体障害者更生相談所が取り組む、地域の身体障害者の相談支援や地域リハビリテーションなどの活動にも関わり、総合的なリハビリテーションサービスを提供すること。

エ リハビリテーション病院と他の市立病院間で、リハビリテーション医療に従事する医師や療法士等の異動、派遣等の交流を進め、リハビリテーション医療の質の向上と、市立病院におけるリハビリテーション医療の安定的な提供を図ること。

オ リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。

中期計画

1 市立病院として担うべき医療
それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設
脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供します。また、広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。

ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供
広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを提供します。

事業年度評価結果（小項目）			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

○ 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したリハビリテーションサービスを提供した。

○ 一貫したリハビリテーションサービスを提供するため、リハビリテーション病院、自立訓練施設及び広島市身体障害者更生相談所の運営責任者で構成する運営調整会議を開催し、3施設の連携を図った。

中期計画

イ 回復期リハビリテーション医療の充実

- ・365日、切れ目なくリハビリテーション医療が提供できる体制を整備し、より効果的な回復期リハビリテーション医療を提供します。
- ・広島市民病院、安佐市民病院との患者情報のスムーズな伝達、共有化等による連携の強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションから回復期のリハビリテーションまでを連続的・一体的に提供します。
- ・退院後の患者を中心に継続的なリハビリテーション医療を提供するため、言語外来など在宅療養への支援の充実を図ります。

【目標値】

区 分	平成24年度実績	平成29年度目標値
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数 (単位/日)	6.6	8.0
在宅復帰率 (%)	81.3	82.0

事業年度評価結果 (小項目)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
4	3	3	4

【主な取組】

- 365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供する体制を整備し、効果的な回復期リハビリテーション医療を提供した。
- 広島市民病院及び安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。
- 広島市民病院リハビリテーション科への診療支援として、毎週、リハビリテーション病院の医師がカンファレンスに出席し、患者及び家族のリハビリテーション計画を策定するとともに、リハビリテーション病院に転院予定の患者の診察や、リハビリテーション適応について検討した。
- 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、言語聴覚士を増員し、言語外来の充実を図るとともに、平成28年度から理学療法と作業療法の外来を開始した。

関連指標

<目標値に対する実績>

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数 (単位/日)	7.8	7.8	7.9	8.4
在宅復帰率 (%)	81.5	82.6	80.9	81.2

<参考実績>

広島市民病院及び安佐市民病院からの入院患者の受入れ

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広島市民病院	141人	140人	106人	112人
安佐市民病院	51人	61人	48人	64人

(外来リハビリテーションの実績)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
言語療法	延人数	1,313人	1,364人	1,621人
	実施単位数	3,911単位	4,082単位	4,858単位
理学療法	延人数	-	-	158人
	実施単位数	-	-	474単位
作業療法	延人数	-	-	296人
	実施単位数	-	-	875単位

中期計画	ウ 看護体制の充実 ・看護師の増員により、重症患者の受入体制の強化を図ります。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】 ○ 重症患者の受入体制を強化するため、段階的に病棟介護士の嘱託職員の正規職員化及びその拡充に努めた。 ○ 年度中途の採用試験を実施するなど看護師確保に努めるとともに、病棟の夜勤体制を強化するため、育児短時間勤務看護師の夜勤ローテーションに組み込むことを進めた。
--

中期計画	エ 自立訓練施設の利用促進 ・リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 ・福祉事務所等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 【目標値】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>区 分</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標値</th> </tr> <tr> <td>月平均利用者数 (人)</td> <td style="text-align: center;">48.8</td> <td style="text-align: center;">52.0</td> </tr> </table>	区 分	平成24年度実績	平成29年度目標値	月平均利用者数 (人)	48.8	52.0	事業年度評価結果（小項目）			
		区 分	平成24年度実績	平成29年度目標値							
		月平均利用者数 (人)	48.8	52.0							
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度								
3	2	2	2								

【主な取組】 ○ リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医となっており、連続性のある訓練を実施するとともに医学的リハビリテーションを取り入れるなど訓練内容の充実を図った。 ○ 介護保険サービスの充実等により、自立訓練施設の主たるサービスである自立訓練（機能訓練）の利用者が全国的にも減少傾向にある中、広島市障害者自立支援協議会の安佐南区地域部会身体障害者部会に参加するなど、関係機関との連携強化に取り組んだ。 ○ 施設利用の対象を拡大し、利用促進を図るため、高次脳機能障害者を対象とする自立訓練（生活訓練）の実施について検討した。	関連指標 <目標値に対する実績> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>区 分</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> <tr> <td>月平均利用者数 (人)</td> <td style="text-align: center;">37.4</td> <td style="text-align: center;">35.7</td> <td style="text-align: center;">40.8</td> <td style="text-align: center;">38.2</td> <td style="text-align: center;">37.3</td> </tr> </table>	区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	月平均利用者数 (人)	37.4	35.7	40.8	38.2	37.3
区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度								
月平均利用者数 (人)	37.4	35.7	40.8	38.2	37.3								

中期計画	<p>オ 相談機能の強化と地域リハビリテーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じた退院・退所後の生活支援ができるよう、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談体制を整備し、相談機能を強化します。 ・広島市身体障害者更生相談所と連携して、地域リハビリテーションの推進を図ります。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療支援室を設置するとともに、医療相談員の増員などにより相談機能の強化を図った。 ○ リハビリテーションをテーマとした市民対象の講座を開催するとともに、医療機関等の技術支援を図る研修会を開催した。また、広島市身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示会及び研修会を開催した。 ○ リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」の作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。
--

中期計画	<p>カ リハビリテーション医療従事者の市立病院間の交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院と他の市立病院間で、リハビリテーション医療に従事する医師や療法士等の人事交流を進め、市立病院におけるリハビリテーション医療の質の向上と安定的な提供を図ります。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 広島市民病院リハビリテーション科への診療支援として、毎週、リハビリテーション病院の医師がカンファレンスに出席し、患者及び家族のリハビリテーション計画を策定した。また、舟入市民病院への診療支援として、リハビリテーション病院の歯科医師と歯科衛生士が、嚥下評価、摂食機能療法の指導、口腔ケアの実施と指導、栄養サポートチーム（NST）への参加などを行い、嚥下リハビリテーションの実践と向上に貢献した。
- リハビリテーション病院と他の市立病院のリハビリテーション医療従事者が情報交換、協議を行う部門会議を開催するとともに、職員の人事交流等を進め、4病院の連携、医療の質の向上を図った。

中期計画	<p>キ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化</p> <p>西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ市街地が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMATの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 他の市立病院の状況を踏まえ、必要なバックアップの具体的な内容（リハビリテーション病院の診療情報管理システムの更新と合わせた他病院の診療情報の保管や保管する医薬品の数量及び管理方法等について）等の検討を行った。
- DMATの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、検討を行った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応

中期目標	医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、医療機器の整備・更新等を計画的に進めること。														
中期計画	2 医療の質の向上														
	(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応 医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編、医療機器の整備・更新等を進めます。														
	ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上 先進事例の調査や院内研修の充実、各種学会・研修会への参加促進等により、医療スタッフの知識の習得や技術の向上を図ります。	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）															
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度												
3	3	3	3												

【主な取組】

- 医療スタッフが日々高度化する医療知識及び技術を身に付けていくため、がん研修会やがんセミナー、基礎看護技術研修会、臨床検査研修会など専門分野に関する研修会、多職種を対象とした感染対策研修会、リスクマネジメント研修会等を開催した。
- 業務に関わる院外の学会や研修会等へ、公費での参加機会の確保に努めた。
- 法人の新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。

中期計画	イ 資格取得の促進 専門資格を取得しやすい環境を整備し、認定看護師等の拡大に取り組みます。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】 ○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進した。	関連指標									
	<参考実績>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>認定看護師等数 (平成29年度末時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>認定看護師 27名</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>認定看護師 7名</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>認定看護師 4名 療法士 2名</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	認定看護師等数 (平成29年度末時点)	広島市民病院	認定看護師 27名	安佐市民病院	認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名	舟入市民病院	認定看護師 7名	リハビリテーション病院
区 分	認定看護師等数 (平成29年度末時点)									
広島市民病院	認定看護師 27名									
安佐市民病院	認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名									
舟入市民病院	認定看護師 7名									
リハビリテーション病院	認定看護師 4名 療法士 2名									

中期計画	ウ 診療体制の充実 今後の疾病動向や患者ニーズの変化、医療の高度化に対応し、適時に診療科の再編を行うなど診療体制の充実を図ります。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
○ 疾病動向や患者ニーズの変化等に対応するため、各病院において診療科の新設、再編などを行った。
○ 広島市民病院においては、早期リハビリテーションの強化を図るため、医療スタッフの増員を行うとともに、新たに日曜日もリハビリテーションを行うようにした。

中期計画	エ 医療水準の維持向上につながる医療機器の整備・更新				
	医療需要の変化や医療の高度化に対応し、各病院の医療水準の維持、向上につながる医療機器の計画的な整備・更新を行います。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	3	3	3	3	

【主な取組】

- 病院の医療水準の維持及び向上につながる医療機器の計画的な整備・更新を行った。
 広島市民病院（磁気共鳴断層撮影装置（MRI）の更新、高精度放射線治療システム（リニアック）の更新など）
 安佐市民病院（内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の導入、全身用マルチスライスCTシステムの更新など）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 医療の質の向上
 (2) 医療の標準化の推進

中期目標 良質な医療を効率的かつ安全、適正に提供するため、クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用の拡大を図ること。

中期計画 2 医療の質の向上
 (2) 医療の標準化の推進
 クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用を拡大するとともに、既存のクリニカルパスを適時に見直し、良質な医療を効率的かつ安全、適正に提供します。

【目標値】クリニカルパス適用率 (単位：%)

区 分	平成 24 年度実績	平成 29 年度目標値
広島市民病院	50.9	55.0
安佐市民病院	50.6	55.0
舟入市民病院	44.9	50.0
リハビリテーション病院	—	50.0

※適用率は、新入院患者のうちクリニカルパスを適用した患者の割合

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
3	2	2	2

【主な取組】

○ 各病院とも、院内のクリニカルパス委員会において、クリニカルパスの活用拡大に努めた。

関連指標

<目標値に対する実績>
 (クリニカルパス適用率) (単位：%)

区 分	平成 26 年度 実績	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
広島市民病院	53.3	50.0	49.9	51.9
安佐市民病院	52.0	51.7	51.0	50.0
舟入市民病院	37.7	29.0	38.9	54.2
リハビリテー ション病院	64.2	64.1	62.5	59.9

※適用率は、新入院患者のうちクリニカルパスを適用した患者の割合

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(3) チーム医療の推進

中期目標	診断技術や治療の多様化・複雑化に対応するため、医療スタッフが、診療科や職種を越えて連携し、それぞれの専門性を生かし、質の高い医療の提供を推進すること。													
中期計画	2 医療の質の向上 (3) チーム医療の推進 個々の患者の病状や、緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的な医療を提供するチーム医療を推進します。													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

○ 各病院では、緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが、診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的なチーム医療を提供した。

[平成29年度の状況]

広島市民病院：緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策部会、摂食・嚥下・口腔ケア部会（SEKチーム）、転倒・転落予防対策チーム、呼吸リハビリチーム（RST）、通院治療センターのチーム医療、せん妄対策部会、在宅療養支援部会、周産期トータルサポートチーム、子ども虐待防止委員会

安佐市民病院：院内感染対策チーム、災害対策チーム、医療安全対策チーム、救急総合診療トリアージチーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム（NST）、摂食・嚥下チーム、緩和ケアチーム、呼吸サポートチーム、心不全サポートチーム、糖尿病チーム、高齢者総合支援チーム、肝臓チーム、排尿ケアチーム

舟入市民病院：栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、摂食・嚥下チーム

リハビリテーション科：栄養サポートチーム（NST）、摂食・嚥下チーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、リスクマネジメントチーム（転倒転落対策チーム、薬剤対策チーム、その他の事例対策チーム）、離床促進チーム、患者サービス向上チーム

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(4) 医療の安全確保の徹底

中期目標	市民に信頼される安全な医療を提供するため、医療事故や院内感染など医療の安全を脅かす事象に関する情報収集・分析を行い、適切な予防策を講じること。														
中期計画	2 医療の質の向上 (4) 医療の安全確保の徹底 市民に信頼される安全な医療を提供するため、適切な予防策を講じます。														
	ア 医療安全管理体制の強化 医療安全管理者や各部門のリスク責任者などで構成する医療安全管理委員会が中心となり、医療事故につながりかねないヒヤリ・ハット事例などの関連情報の収集・分析、医療事故の発生防止や発生時の対応等のマニュアル作成、院内研修などを行い、医療の安全確保に取り組みます。	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）															
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度												
3	3	3	3												

【主な取組】

- 広島市民病院及び安佐市民病院では医療支援センター医療安全対策室に、舟入市民病院及びリハビリテーション病院では医療支援室に、それぞれ専従の医療安全管理者等を配置し、医療安全管理を行った。
- 各病院とも、事例検討会や、ワーキンググループ活動で、事例の改善策の検討や医療安全関連マニュアルガイドライン等の見直し、整備を行った。
- 各病院とも各部署に、リスクマネジャーを配置し、インシデント・アクシデント報告を取りまとめ、各職種で構成される委員会に毎月報告するとともに、毎月部長会などで報告し院内への周知及び情報の共有化を図った。

中期計画	<p>イ 院内感染の防止</p> <p>感染管理認定看護師などで構成する感染対策委員会が中心となり、感染症に関する情報収集、院内の調査・監視、職員への院内感染予防指導、意識啓発を実施し、院内感染対策に取り組みます。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 院内に、病院長をはじめ、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等、各部門の代表者による院内感染症対策委員会を設置し、報告、情報提供、対策の検討及び審議を行った。 ○ 院内感染対策チームの主要スタッフが定期的に院内をラウンドし、各部署の点検及び指摘を行うとともに、院内への周知を図り、必要に応じてマニュアル等の見直しを行った。また、感染症に対応する専門チームを設置し、一刻を争う感染症の予防・拡大防止に迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。 ○ 各病院において、全職員を対象とした院内感染の予防に関する研修会を行った。

中期計画	<p>ウ 迷惑患者対策の実施</p> <p>一部の患者等による病院職員に対する暴言や暴力は、直接的な被害だけでなく、業務の妨げや他の患者等の迷惑となることから、専門職員を配置し、迷惑患者対策に取り組みます。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、迷惑患者等に対応するため、保安員を配置し、院内の秩序維持に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、暴言暴力防止のための警告ポスターを院内に掲示するとともに、緊急時には速やかに職員が駆けつける等の体制を整えている。 ○ リハビリテーション病院では、所轄警察署及び広島市市民局市民安全推進課の協力を得て防犯訓練を実施するとともに、トラブル対応及び法的な整理、考え方などについての研修を実施した。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(5) 医療に関する調査・研究の実施

中期目標	高度で先進的な医療の提供及び地域の医療水準の向上を図るため、職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めること。また、治験に積極的に取り組むこと。													
中期計画	2 医療の質の向上 (5) 医療に関する調査・研究の実施 職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めます。また、治験等の推進に取り組みます。 ア 職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信 職員が意欲的に自主的な研究活動に取り組める環境整備を行うとともに、研究成果を積極的に発表する場を設け、情報発信に努めます。													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 職員の優秀な論文や経営改善アイデアに対しては、理事長が表彰し、自主的な研究活動の促進を図った。
- 職員の自主的な研究の成果を発表する場として、院内機関誌の発行（広島市民病院「医誌」、安佐市民病院「業績集」）や学会での発表に配慮した勤務シフトの見直しなどを行った。舟入市民病院では、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。リハビリテーション病院では、学会発表や論文発表などを取りまとめた年報を作成し、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。
- 各病院において、職員向けにインターネットによる文献検索サイトや国内外の医療雑誌を収録した電子ジャーナル及び研修医向け臨床医学情報サイトを閲覧できる環境を整えた。

中期計画	イ 治験等臨床研究の推進 医薬品等の治療効果や安全性を高めるために行われる治験等の臨床研究に、積極的に取り組みます。実施に当たっては、患者の意見を尊重するとともに、治験審査委員会等による事前・事後の管理監督を徹底し、安全性や手続の公正性を確保します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】	<p>○ 新規及び実施中の治験は国内の基準及び国際的なガイドラインを遵守し、科学的・倫理的側面から実施・継続の可否を十分審議し、被験者である患者の安全を確保した上で実施した。</p> <p>○ リハビリテーション病院については、これまで治験の実績はないが、今後の治験実施に向けて、審査等については広島市民病院の治験審査委員会に依頼できるようにするなど両病院で要綱改正等の準備を行った。</p>	関連指標
		<参考実績>
		(治験新規件数)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
広島市民病院	18件	20件	21件	20件	17件
安佐市民病院	3件	—	1件	1件	1件
舟入市民病院	1件	2件	2件	—	—

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 患者の視点に立った医療の提供
 (1) 病院情報の提供

中期目標
 ア 診療内容や治療実績など、患者等が病院を選択する上で必要な情報や、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促進する情報を積極的に提供すること。
 イ 病院の運営内容や経営状況について、市民に分かりやすく情報発信すること。とりわけ、第1期中期目標期間中においては、法人化の目的や効果について、市民への周知を図ること。

中期計画	3 患者の視点に立った医療の提供 (1) 病院情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> 市立病院機構のホームページを新たに設けるとともに、各病院のホームページの充実を図るなど、多様な媒体を活用し、分かりやすい情報発信に努めます。 各診療科の特色や治療実績など患者等が病院を選択する上で必要な情報や、病院の現状や地域の医療機関との役割分担について市民の理解を促すための情報を、積極的に提供します。 病院経営の透明性を高めるため、病院の運営、財務に関する計画や実績等について、市民に分かりやすい形で公表します。特に、この計画期間中は、地方独立行政法人化の目的や効果について、積極的に広報します。 情報の内容等に応じ、広島市の広報媒体や医師会等の関係団体、マスコミ等を通じた広報にも取り組みます。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	3	3	3	3	

- 【主な取組】**
- 法人化に伴い、市立病院機構独自のホームページを作成し、法人の基本理念や基本方針、中期計画、年度計画などを公表するとともに、法人化の目的や期待される効果などについても周知を図った。また、財務諸表、事業報告書等を市立病院機構のホームページに掲載した。
 - 広島市民病院、安佐市民病院、舟入市民病院及びびりハピリテーション病院のホームページについても、法人化を機に病院利用者にとって分かりやすく利用しやすいホームページとなるよう、全面的なリニューアルを行った。
 - 患者等が病院を選択する上で必要となる各診療科の特色や治療実績などの情報を病院ごとにホームページ等で提供した。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 3 患者の視点に立った医療の提供
 (2) 法令・行動規範の遵守

中期目標	市立病院としての公的使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令はもとより行動規範を遵守し、適正な病院運営を行うこと。 また、個人情報保護及び情報公開に関しては、本市条例等に基づき適切に対処すること。											
中期計画	3 患者の視点に立った医療の提供 (2) 法令・行動規範の遵守 ア 行動規範の確立と徹底 医療法をはじめとする関係法令及び行動規範の遵守について、研修等により職員に徹底し、適正な病院運営に取り組みます。	事業年度評価結果（小項目） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	2	2	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度									
3	2	2	3									

【主な取組】

- 新規採用職員については、服務規律に関する法人の規程を説明するほか、過去の処分事例を紹介するなどの研修を行った。
- 各病院において職員倫理研修を行い、服務規律の徹底を図った。

中期計画	イ 適正な個人情報の保護と情報の公表・開示 広島市個人情報保護条例及び広島市情報公開条例の実施機関として、個人情報を適正に取り扱うとともに、患者等への情報開示を適正に行います。	事業年度評価結果（小項目） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度									
3	3	3	3									

【主な取組】

- 個人情報管理及びその開示等については、広島市個人情報保護条例及び広島市情報公開条例等に基づき、適切な運用を図った。

中期計画	<p>ウ 病院内規程等の点検・見直し</p> <p>各病院の実態に応じて運用している病院内の規程やマニュアル等について、常に点検し、見直しを行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 各病院において、医療安全マニュアル、感染対策マニュアル、入院時説明文書、個人情報保護指針、消防防災計画など、随時、病院内の規程・マニュアル等の点検及び見直しを行った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 3 患者の視点に立った医療の提供
 (3) 患者等への適切な医療情報の提供、説明

中期目標	<p>ア 患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供するため、インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底すること。</p> <p>イ 他の医療機関の患者等が、診断や治療方針の理解を深め、患者に合った診療を選択するため、セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。）を実施すること。</p>
中期計画	<p>3 患者の視点に立った医療の提供 (3) 患者等への適切な医療情報の提供、説明 ア インフォームド・コンセントの徹底 インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供します。</p>

事業年度評価結果（小項目）			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

- 各病院において、治療方法の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足の得られる医療を提供した。
- ホームページに患者の権利として、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があることを掲載するなど、患者への周知を図った。

中期計画	<p>イ セカンドオピニオンの実施 セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聴くこと。）を実施するとともに、市立病院の患者が、他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望する場合には、適切に支援します。</p>
------	--

事業年度評価結果（小項目）			
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

- 各病院において、セカンドオピニオンを自由に依頼することができる旨を院内に掲示するとともに、ホームページにも掲載し、患者への周知を図った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(4) 相談機能の強化

中期目標

安心して医療を受けることができるよう、疾病や治療に関する不安や、医療費の負担等の生活上の問題、退院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な相談に積極的に対応すること。

中期計画	3 患者の視点に立った医療の提供											
	(4) 相談機能の強化											
	<p>専門職員の増員等により、医療支援センター等の相談支援体制を強化し、疾病や治療に関する相談をはじめ、医療費の負担等の生活上の問題、退院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な相談に積極的に対応します。</p>	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	4
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度									
3	3	4	3									

【主な取組】

○ 広島市民病院及び安佐市民病院の医療支援センターについては、医療相談員（MSW）を増員し、体制の強化を図った。

○ 舟入市民病院及びリハビリテーション病院では、平成26年度に新たに医療支援室を設置し、医療相談員（MSW）の増員などにより相談支援体制の強化を図った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(5) 患者サービスの向上

中期目標 常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった対応ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ること。また、患者等のニーズを的確に捉え、療養環境の改善や待ち時間等の短縮などに取り組むとともに、よりきめ細やかなサービスの提供に努めること。

中期計画	3 患者の視点に立った医療の提供	<table border="1"> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
	事業年度評価結果（小項目）													
	平成26年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度									
3	3	3	3											
(5) 患者サービスの向上														
ア 接遇・対応研修の充実	接遇研修等を充実し、常に患者やその家族の立場に立ち、誠意を持った対応に取り組めます。													

【主な取組】

○ 各病院とも、接遇研修会の開催や接遇の基本チェックなど接遇対応能力の向上に取り組んだ。

中期計画	<p>イ 患者・家族ニーズの把握と病院運営への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的なアンケート調査などにより、患者やその家族のニーズの把握に努め、病院運営の見直しに取り組みます。 外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討を行い、可能な取組から実施します。 病院給食について、個々の入院患者の病状や体質に配慮しながらも、おいしい給食となるよう、改善に取り組みます。 <p>【目標値】患者満足度 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>88.5</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.0</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>80.2</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>94.8</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	広島市民病院	88.5	90.0	安佐市民病院	80.0	90.0	舟入市民病院	80.2	90.0	リハビリテーション病院	94.8	95.0	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	2	2
	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値																						
広島市民病院	88.5	90.0																							
安佐市民病院	80.0	90.0																							
舟入市民病院	80.2	90.0																							
リハビリテーション病院	94.8	95.0																							
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度																						
4	3	2	2																						

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院とも、病院利用者から、職員の対応・態度、施設環境、待ち時間等についてアンケート調査を実施し、必要な見直し及び改善に取り組んだ。 各病院とも、医療支援室を通じた事前予約や、トリアージを行うことなどにより、外来の待ち時間の短縮に向けた取組を行った。 各病院とも、病院給食についてのアンケート調査を行い、献立等給食内容について委託業者と定期的に協議し、日常的に見直し及び改善に取り組んだ。 	<p>関連指標</p> <p><目標値に対する実績></p> <p>患者満足度 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度実績</th> <th>平成27年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>91.6</td> <td>89.5</td> <td>90.9</td> <td>83.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>90.1</td> <td>86.0</td> <td>82.7</td> <td>74.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>83.8</td> <td>73.8</td> <td>76.8</td> <td>79.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>95.0</td> <td>96.2</td> <td>96.1</td> <td>96.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	区分	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	広島市民病院	91.6	89.5	90.9	83.1	安佐市民病院	90.1	86.0	82.7	74.3	舟入市民病院	83.8	73.8	76.8	79.5	リハビリテーション病院	95.0	96.2	96.1	96.6
区分	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績																						
広島市民病院	91.6	89.5	90.9	83.1																						
安佐市民病院	90.1	86.0	82.7	74.3																						
舟入市民病院	83.8	73.8	76.8	79.5																						
リハビリテーション病院	95.0	96.2	96.1	96.6																						

中期計画	<p>ウ 入院手続の集約化</p> <p>入院手続や術前検査予約等が一箇所でスムーズに行うことができる入院センターの開設など、入院患者の利便性の向上を図ります。</p>	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	4	4	4
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度						
4	4	4	4							

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広島市民病院では、平成27年8月に入院支援室を設置し、平成29年度には対応診療科を12科から14科に拡大するとともに、平成30年3月には対応ブースを16に増設し、全診療科の予定入院患者に対応できるよう整備し、入院患者の利便性の向上を図った。 安佐市民病院では、平成28年4月に入院支援センターを開設し、産婦人科、小児科及び精神科を除く全ての科を対応診療科としたが、平成29年度からは産婦人科のうちの婦人科についても対応診療科とし、入院患者の利便性の向上を図った。
--

中期計画	<p>エ 療養環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者等病院利用者がより快適に過ごせるよう、病室、待合スペース、売店、食堂、喫茶の改善など療養環境の改善に努めます。 ・ボランティアの協力も得ながら、院内の案内、車椅子の介助など、患者サービスの向上に取り組みます。また、デジタルサイネージ等 I C T を活用し、分かりやすい案内表示に努めます。 	事業年度評価結果（小項目）			
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	3	3	3	3	

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者満足度アンケート調査の中で療養環境についての調査も行い、広島市民病院では 24 時間営業のコンビニエンスストアを導入し、安佐市民病院では売店をコンビニエンスストアに変更し、舟入市民病院では多目的トイレを設置するなど、療養環境の改善に取り組んだ。 ○ 各病院とも、ボランティアを積極的に受け入れ、患者サービスの向上を図った。 ○ 各病院とも、案内表示を点検し、追加設置などの見直しを行った。
--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

中期目標 地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受入れ・患者の紹介を積極的に行うなど、地域の医療機関との連携を図ること。また、地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）を作成・運用し、他の医療機関との連携により、一貫性のある医療を提供すること。

中期計画

4 地域の医療機関等との連携
職員の増員等により、地域の医療機関等との連携を推進する医療支援センター等の体制を強化します。

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等

地域の医療機関や医師会との連携を強化し、地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受入れ、患者の紹介を積極的に行い、より多くの患者に必要とされる医療を提供する体制の維持に努めます。

【目標値】 患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：％）

区分	平成24年度実績	平成29年度目標値
広島市民病院	62.7	65.0
安佐市民病院	66.8	70.0
舟入市民病院	21.3	28.0

※紹介率＝（紹介患者の数＋救急患者の数）／初診患者の数×100

【目標値】 患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）

区分	平成24年度実績	平成29年度目標値
広島市民病院	79.1	90.0
安佐市民病院	102.4	100.0
舟入市民病院	19.2	23.0

※逆紹介率＝逆紹介患者の数／初診患者の数×100
※当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。

事業年度評価結果（小項目）

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

- 地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れ並びに退院後の地域の医療機関への紹介及び生活支援に取り組むため、医療支援室等の体制を強化した。
- 各病院とも、地区医師会との交流及び意見交換の場を通じて連携を強化した。
- 舟入市民病院においては、平成27年度途中から地域包括ケア病床（6階病棟のうち10床）の導入・運用開始に伴い、開業医への訪問（面会）を行うなど、積極的に連携づくりを行い、高齢者の生活支援に取り組んだ。

関連指標

<目標値に対する実績>

患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）（単位：％）

区分	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績
広島市民病院	65.5	61.2	68.4	76.8	78.4
安佐市民病院	70.8	77.6	77.3	80.2	85.2
舟入市民病院	23.6	22.1	25.0	25.6	26.6

※紹介率＝（紹介患者の数＋救急患者の数）／初診患者の数×100

- リハビリテーション病院では、地域における在宅医療・介護の連携推進を図るため、安佐医師会、安佐南区役所厚生部健康長寿課、医療機関、地域包括支援センター、介護サービス事業所等で構成する安佐南区地域包括エリア毎在宅医療連携推進会議に参加した。

<目標値に対する実績>

患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）（単位：％）

区分	平成25年度 実績	平成26年度 実績	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績
広島市民病院	79.5	82.0	83.2	88.4	89.2
安佐市民病院	110.1	137.0	122.7	139.0	130.9
舟入市民病院	18.3	19.5	19.4	21.3	19.3

※逆紹介率=逆紹介患者の数/初診患者の数×100

中期計画	イ 地域連携クリニカルパスの運用拡大 一貫性のある医療を提供し、治療効果の一層の向上を図るため、地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）の作成・運用の拡大に取り組みます。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】 ○ 各病院とも、地域連携クリニカルパスの作成・運用の拡大に努めた。	関連指標																																												
	<参考実績>																																												
	（地域連携クリニカルパスの種類及び適用件数）（各年度3月末現在 単位：件）																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">平成26年度</th> <th colspan="2">平成27年度</th> <th colspan="2">平成28年度</th> <th colspan="2">平成29年度</th> </tr> <tr> <th>種類件数</th> <th>適用件数</th> <th>種類件数</th> <th>適用件数</th> <th>種類件数</th> <th>適用件数</th> <th>種類件数</th> <th>適用件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>9</td> <td>503</td> <td>10</td> <td>513</td> <td>10</td> <td>546</td> <td>10</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>10</td> <td>521</td> <td>10</td> <td>505</td> <td>11</td> <td>519</td> <td>11</td> <td>461</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>2</td> <td>134</td> <td>2</td> <td>145</td> <td>2</td> <td>131</td> <td>2</td> <td>148</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		種類件数	適用件数	種類件数	適用件数	種類件数	適用件数	種類件数	適用件数	広島市民病院	9	503	10	513	10	546	10	448	安佐市民病院	10	521	10	505	11	519	11	461	リハビリテーション病院	2	134	2	145	2	131	2	148
区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度																																						
	種類件数	適用件数	種類件数	適用件数	種類件数	適用件数	種類件数	適用件数																																					
広島市民病院	9	503	10	513	10	546	10	448																																					
安佐市民病院	10	521	10	505	11	519	11	461																																					
リハビリテーション病院	2	134	2	145	2	131	2	148																																					

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 4 地域の医療機関等との連携
 (2) 地域の医療機関への支援

中期目標	市立病院が保有する高度医療機器の共同利用などにより、地域の医療機関を支援すること。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会の開催などにより、地域の医療人材の育成に努めること。													
中期計画	4 地域の医療機関等との連携 (2) 地域の医療機関への支援													
	ア 高度医療機器の共同利用、開放型病床の利用の促進 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用や開放型病床の利用を促進し、地域の医療水準の向上を図ります。													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 地域の医療水準の向上を図るため、地域の医療機関と高度医療機器の共同利用を行うとともに、開放型病床（広島市民病院が34床、安佐市民病院が9床）の活用の促進を図った。

中期計画	<p>イ オープンカンファレンス等の実施</p> <p>地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会等を開催し、市立病院における症例や医療技術等の医療情報を提供することなどにより、地域の医療人材の育成を図るとともに、「顔の見える連携関係」を構築します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 以下のとおり各病院において、研修会等及びオープンカンファレンスを開催した。
- 各病院の扱った症例と施術内容、研究業績等の医療情報は、学会や、各病院のホームページ、病院の発行する広報誌、情報誌で情報提供した。
- 広島市民病院では、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成しているインターネット上の文献データベースに「医誌」を登録し、掲載している論文の概要を公開した。

<参考実績>

区 分	平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度			
	研修会等		オープンカンファレンス		研修会等		オープンカンファレンス		研修会等		オープンカンファレンス		研修会等		オープンカンファレンス	
	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数
広島市民病院	13回	1,426人	14回	363人	11回	1,259人	15回	520人	11回	1,478人	19回	802人	10回	1,170人	15回	433人
安佐市民病院	19回	841人	10回	230人	26回	1,095人	10回	233人	21回	850人	10回	235人	21回	949人	8回	165人
舟入市民病院	3回	129人	-	-	1回	49人	-	-	-	-	1回	39人	1回	40人	1回	31人
リハビリテーション病院	6回	94人	1回	43人	4回	154人	1回	48人	4回	188人	1回	69人	3回	114人	-	-
計	41回	2,490人	25回	636人	42回	2,557人	26回	801人	36回	2,516人	31回	1,145人	35回	2,273人	24回	629人

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 地域の医療機関等との連携
 (3) 保健機関、福祉機関との連携

中期目標	高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するため、保健所等と連携し、疾病の予防や再発防止に取り組むこと。また、退院後の介護等に対する支援を強化するため、地域包括支援センターや介護サービス事業所等との連携を図ること。													
中期計画	4 地域の医療機関等との連携 (3) 保健機関、福祉機関との連携 ア 保健機関との連携 高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するため、保健所等と連携し、生活習慣病の予防や再発防止等に積極的に取り組みます。													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

- 【主な取組】
- 広島市民病院では、救急医療コントロール機能病院としての運営について、広島市健康福祉局保健部保健医療課（現：広島市健康福祉局保健部医療政策課）と協議し、及び調整するとともに、医師が同課の所管する「広島市がん検診精度管理連絡会議」の委員となっている。
 - 安佐市民病院では、保健センター（安佐北区・安佐南区）と精神障害者に係る事例検討会を開催した。
 - 舟入市民病院では、広島市が実施する市政出前講座等でスキンケアに関する講習、小児救急に関する講習、感染症に係る講習、緩和ケアに関する講習、医療倫理に関する講習を行った。
 - リハビリテーション病院では、市民公開講座において脳卒中・認知症予防に関する講演や体操指導による介護予防等の啓発を行うとともに、広島市が実施する市政出前講座においてリハビリテーション医療の流れや脳卒中のリハビリテーションなどに関する講習や講演を行った。

中期計画	イ 福祉機関との連携 福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等との連携を強化し、患者の退院後の療養や介護などを支援します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養などの支援を行った。
- 関係機関との連携をよりスムーズに行うため、地域包括支援センター等との情報の交換、交流の場を随時設けた。特に安佐市民病院では、安佐北区や安佐南区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、安佐北区役所厚生部健康長寿課及び一般社団法人安佐医師会で構成する地域包括連携会議を設け、地域医療連携マップの作成や研修会の開催等を行うとともに、患者の同意を得た上で、その情報の共有化を図った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市立病院間の連携の強化

(1) 一つの病院群としての病院運営の推進

中期目標 (1) 市立病院は、病院間相互に連携し各病院の医療機能を補完し合い、病院群全体として、広島市の医療施策上必要な医療を提供するとともに、一つの病院群として、各病院の役割の見直しや連携強化などを進めることで、効率的、効果的な病院運営を行うこと。また、広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院についても、引き続き連携を図ること。

中期計画	<p>5 市立病院間の連携の強化</p> <p>(1) 一つの病院群としての病院運営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立病院が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合い、一つの病院群として、広島市の医療施策上必要な医療を提供するとともに、各病院の役割の見直しや連携強化などを進め、効率的、効果的な病院運営を行います。 市立病院の一体感を促進するため、病院間の人事交流を進めます。 同じ職種同士又は職種を越えて、各病院の職員が協議、交流する場づくりを進め、病院間の連携を推進します。 広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院との連携を図り、患者の受入れや紹介を積極的に行います。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長・総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。また、理事長は、毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。
- リハビリテーション病院では、広島市民病院・安佐市民病院と連携し、両病院から急性期医療を終えた多くの患者を受け入れた。
- 舟入市民病院では、広島市民病院の急性期医療を終えた患者の積極的な受入れや医師及び医療技術職の派遣をしてもらうなど広島市民病院との連携強化を進めた。
- 広島市民病院は、婦人科、乳腺外科、脳神経外科・脳血管内治療科の医師、診療放射線技師、臨床検査技師を舟入市民病院健康管理センターに派遣し、様々な検査データの読影及び診断を行い、その運営を支援するとともに、職員の適性等を生かし、各病院運営の活性化を図るため、病院間における異動を行った。
- 病院の枠を越えて、採用、職員配置、業務内容等の現状と課題等について、協議、交流及び検討をする場として、各病院の責任者が出席する部門会議（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床工学技士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、診療情報管理士及び事務職）を定期的に開催した。
- 看護部門については、看護総合アドバイザーと各病院の看護部長等が毎月ミーティングを行い、看護部門の現状と課題及びそれらへの解決策を協議する場として、看護アドバイザー会議を開催した（平成26年度～平成28年度）。
- 安芸市民病院との連携を図るため、同病院からの患者の受入れや、同病院への患者の紹介を行った。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市立病院間の連携の強化

- (2) 病院総合情報システムの更新等
- (3) 地域の医療機関との診療情報の共有化の検討

中期目標	(2) 市立病院間で診療情報の円滑な伝達や共有化等を図り、より効率的で質の高い医療を提供するため、病院総合情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）の更新に取り組むこと。加えて、地域の医療機関との診療情報の共有化についても検討すること。		
中期計画	5 市立病院間の連携の強化		
	(2) 病院総合情報システムの更新等 広島市民病院及び安佐市民病院で運用している病院総合情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）の更新と舟入市民病院への導入等により、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進します。		
		事業年度評価結果（小項目）	
		平成26年度	平成27年度
		3	3
		平成28年度	平成29年度
		3	3

【主な取組】

- 平成27年度に更新等を実施した4病院の病院総合情報システムにおいて、電子カルテを中心としたシステムの円滑な運用を行うとともに、4病院間の円滑な情報伝達及び共有化を実施した。

中期計画	(3) 地域の医療機関との診療情報の共有化の検討		
	ひろしま医療情報ネットワーク（診療情報などの医療情報を複数の医療機関で共有するシステム）の利用状況等も踏まえ、地域の医療機関との診療情報の共有化等について検討します。		
		事業年度評価結果（小項目）	
		平成26年度	平成27年度
		3	3
		平成28年度	平成29年度
		3	3

【主な取組】

- 平成28年11月から病院総合情報システムと同時構築した地域医療連携システムにより市立病院間の連携を実施した。
- 平成29年4月からひろしま医療情報ネットワークに開示病院として参加し、約900の病院、薬局等と連携して診療情報の共有化を実施した。
- 平成29年11月からひろしま医療情報ネットワークを利用して地域医療連携システムにより地域の医療機関と連携した。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 6 保健医療福祉行政への協力
 (1) 広島市が実施する保健医療福祉施策への協力
 (2) 災害等の緊急事態への対応

中期目標	広島市が実施する保健医療福祉施策に協力すること。													
中期計画	6 保健医療福祉行政への協力 (1) 広島市が実施する保健医療福祉施策への協力 これまでどおり、広島市の保健医療福祉を担当する部局との連携を維持し、広島市が実施する保健や医療、福祉施策に積極的に協力します。													
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	4	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	4	3	3											

【主な取組】

- 広島市の保健医療福祉を担当する部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。
- 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業に協力するため、医療支援センターにコーディネーターを採用し、自殺再企図防止に努めた。
- 舟入市民病院では、レスパイトケア（重症心身障害児（者）医療型短期入所事業）を実施し、重度心身障害児（者）の受入れを行った。

中期計画	(2) 災害等の緊急事態への対応 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・食中毒や感染症をはじめとする健康危機事案への対応についても、広島市の保健医療担当部局、消防局等との連携と情報共有を図り、市立病院として求められる医療の提供等を行います。													
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 平成26年8月20日の豪雨災害発生時に、災害発生日から、広島市からの求めに応じて、広島市民病院、安佐市民病院及び舟入市民病院で医療救護班を編成し、日中の避難所の巡回や夜間の避難所への派遣を行った。
- 平成28年熊本地震の際、広島市民病院では平成28年4月27日に、安佐市民病院では同月30日に医療救護班を現地に派遣した。
- 広島市からの食中毒警報などの健康危機事案に関する情報については、本部事務局が窓口となり、各病院へ提供し、情報共有を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の確立

- (1) 理事会を中心とした組織体制の整備、病院長の権限強化等
- (2) 本部事務局体制の整備
- (3) 病院事務室の機能強化
- (4) 業務改善に取り組む風土づくり

中期目標	市立病院機構は、中期目標、中期計画に掲げる目標、取組の達成を目指し、自律的、機動的な病院運営を行うこと。そのため、理事会を中心とした組織体制を整備するとともに、市立病院機構内で適切な権限配分を行い、各病院長のリーダーシップの下、迅速で的確な意思決定ができるようにすること。また、職員の積極的な経営参画意識を高め、業務改善に取り組む風土を醸成すること。														
中期計画	<p>1 業務運営体制の確立</p> <p>中期目標、中期計画に掲げる目標、取組の達成を目指し、市立病院機構の運営を自律的、機動的に行うため、次のことに取り組みます。</p> <p>(1) 理事会を中心とした組織体制の整備、病院長の権限強化等</p> <p>市立病院機構が自律的、機動的な病院運営を行うため、理事会を中心とした組織体制を整備します。また、病院長のリーダーシップの下で、各病院の実情を踏まえた自主的な病院運営が迅速かつ的確に行えるよう、病院長の権限強化や、説明責任の徹底などの責任の明確化を図ります。</p>														
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）															
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度												
3	3	3	3												

【主な取組】

- 理事会規程、組織規程及び職務権限規程を整備し、理事長及び病院長それぞれの役割に応じた権限配分を行った。
- 予算編成において、各病院長の判断により、医療機器整備計画を、病院の実態や必要性に応じて見直し、前倒し整備等を行うこととした。また、病院で購入することができる物品購入の上限額を引き上げ、病院長の権限強化を行った。
- 毎月、各病院長等が出席する経営会議において、法人の主要な課題等について協議し、及び検討するとともに、理事長が毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。

中期計画	<p>(2) 本部事務局体制の整備</p> <p>市立病院の病院機能の向上、経営改善に係る課題分析や対応策の企画立案が、迅速かつ的確に行える本部事務局体制の整備を行います。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人化に伴い、契約事務を所管する契約課及び各病院の施設整備、維持改修等を所管する施設整備課を、本部事務局に新たに設置した。 ○ 病院の看護業務について、専門的な立場から適宜、助言及び指導を行うため、看護総合アドバイザーを配置した（平成26年度～平成28年度）。 ○ 財務課において、安定した経営基盤を構築し、経営改善に役立つ企画立案を行うため、平成29年度に経営企画係を新設し、担当者を配置した。

中期計画	<p>(3) 病院事務室の機能強化</p> <p>職員の増員や組織の再編、病院経営や医療事務に係る専門知識を有する職員の確保など、各病院の運営を支える病院事務室の機能強化を図ります。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 病院経営に精通した人材を確保するため、病院勤務経験のある者を採用した。 ○ 医療事務に係る専門知識を有している職員を確保するため、医事業務の管理職としての勤務経験がある者を採用した。 ○ 広島市民病院及び安佐市民病院については、病院の経営分析、経営改善を専任で行う「企画課」を新設した。

中期計画	<p>(4) 業務改善に取り組む風土づくり</p> <p>経営状況や業務運営上の課題等について、常に問題意識を持ち、その改善に取り組もうとする組織風土を醸成するとともに、業務運営の改善や効率化について提案しやすい仕組みを検討します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <p>○ 職員の優秀な論文や経営改善アイデアに対しては、理事長が表彰し、自主的な研究活動の促進を図った。</p> <p>○ 各病院の収支状況については、随時、部長会等で説明し、職員への周知、意識啓発を図った。</p>	関連指標				
	<参考実績>				
	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経営アイデア表彰件数	4件	4件	7件	3件	

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 人材の確保、育成

(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保

中期目標	病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応するため、多様な採用方法・雇用形態を取り入れ、必要な時に必要な医療スタッフ等の人材を確保すること。									
中期計画	2 人材の確保、育成									
	(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保									
	収支への影響も踏まえながら、積極的に組織や人員体制の見直しを行い、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保に取り組みます。 ア 診療体制の拡充 業務の量や質に応じた適切な人員配置を行い、診療・看護体制の充実や医療スタッフの負担軽減を図ります。		事業年度評価結果（小項目） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度							
3	3	3	3							

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療体制を強化するため、4年間で医療職の定員を208名増員した。 ○ 医療職の嘱託・臨時職員ポスト158を正規職員ポストに切り替えた。 ○ 看護師については、中途退職者や産育休取得者、育児短時間勤務者の増加による実働者数の不足に対応するため、通常の採用試験とは別に、必要に応じ、年度中途に採用試験などを実施した。医療技術職についても、欠員を解消するため、年度中途に採用試験を実施した。 ○ 平成27年12月から看護補助者の業務に身体介助業務を加えるなど、業務の見直しを行った。 	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>(4年間の定員増の内訳) (単位：人)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>広島市民病院</th> <th>安佐市民病院</th> <th>舟入市民病院</th> <th>リハビリテーション病院</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>44</td> <td>29</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>22</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>—</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>4</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>生活支援員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>相談支援専門員</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>介護士</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>94</td> <td>47</td> <td>22</td> <td>45</td> <td>208</td> </tr> </tbody> </table>	職種	広島市民病院	安佐市民病院	舟入市民病院	リハビリテーション病院	合計	医師	5	7	1	—	13	看護師	44	29	14	9	96	薬剤師	22	5	3	—	30	臨床検査技師	1	—	—	—	1	臨床工学技士	4	—	—	—	4	診療放射線技師	9	2	—	—	11	理学療法士	5	1	3	7	16	作業療法士	3	1	—	9	13	言語聴覚士	—	—	—	6	6	生活支援員	—	—	—	2	2	医療ソーシャルワーカー	1	2	1	1	5	相談支援専門員	—	—	—	1	1	介護士	—	—	—	10	10	合計	94	47	22	45	208
職種	広島市民病院	安佐市民病院	舟入市民病院	リハビリテーション病院	合計																																																																																						
医師	5	7	1	—	13																																																																																						
看護師	44	29	14	9	96																																																																																						
薬剤師	22	5	3	—	30																																																																																						
臨床検査技師	1	—	—	—	1																																																																																						
臨床工学技士	4	—	—	—	4																																																																																						
診療放射線技師	9	2	—	—	11																																																																																						
理学療法士	5	1	3	7	16																																																																																						
作業療法士	3	1	—	9	13																																																																																						
言語聴覚士	—	—	—	6	6																																																																																						
生活支援員	—	—	—	2	2																																																																																						
医療ソーシャルワーカー	1	2	1	1	5																																																																																						
相談支援専門員	—	—	—	1	1																																																																																						
介護士	—	—	—	10	10																																																																																						
合計	94	47	22	45	208																																																																																						

中期計画	<p>イ 医療支援センター等の体制強化</p> <p>地域の医療機関等との連携強化、患者・家族に対する相談支援機能の強化のため、専門職員の増員等により医療支援センター等の体制を強化します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	4	4

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療相談員や看護師の増員を行うとともに、嘱託や臨時職員であった医療相談員の正規職員化を行った。 ○ 入院患者の利便性の向上、医師・病棟看護師の負担軽減を図るため、入院手術、術前検査等予約等の一元化を順次、進めた。

中期計画	<p>ウ 多様な採用方法と雇用形態の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用に加え、経験者採用の拡大、退職者の再任用・再雇用の活用などにより、迅速、柔軟な人材確保を進めます。 ・多様な勤務時間、勤務シフトを導入し、より幅広く必要な人材の確保に取り組みます。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人化のメリットを生かし、通常の採用試験とは別に経験者を対象とした年度中途の採用試験を、看護師、薬剤師等の医療職について実施した。 ○ 育児短時間勤務を行っている看護師について、勤務時間を見直し、より働きやすい勤務形態が選択できるよう、制度改正を行った。 ○ 業務の実態に対応するため、早出勤務及び遅出勤務の開始時間を随時見直した。

中期計画	エ 医師確保の推進 臨床研修プログラムの充実や指導体制の整備等に取り組み、臨床研修医や後期研修医の受入拡大、定着を図ります。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 広島市民病院及び安佐市民病院では、臨床研修医師向け病院説明会に参加し研修プログラムのPRをするとともに、指導医体制強化のため指導医資格取得講習会に医師を派遣し、それらの指導医を中心に研修プログラムの充実を図った。
- 舟入市民病院は、「協力型臨床研修病院」の指定を受けており、基幹型臨床研修病院である広島大学病院臨床実習教育研修センターなどから、初期臨床研修医を受け入れた。
- リハビリテーション病院では、4学会から教育研修施設の認定を受け、各学会の研修プログラムを充実して受入体制を整えた。また、広島大学病院の協力型臨床研修指定病院となり、平成27年度からは、初期研修医を受け入れた。

<参考実績>

(参考) 臨床研修医受入状況

(単位：人)

区分	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計
広島市民病院	26	63	89	27	62	89	29	53	82	29	52	81
安佐市民病院	15	32	47	13	28	41	17	21	38	19	23	42
舟入市民病院	12	—	12	15	—	15	13	—	13	14	—	14
リハビリテーション病院	—	1	1	3	1	4	—	1	1	1	1	2
合計	53	96	149	58	91	149	59	75	134	63	76	139

中期計画	オ 看護師確保の推進	事業年度評価結果（小項目）			
	広島市立看護専門学校や他の看護師養成機関等との連携強化を図り、優れた看護師の確保に取り組みます。				
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		4	4	3	3

【主な取組】	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 採用試験受験者数の拡大を図るため、各病院において病院説明会を開催し、及び看護師採用情報誌主催の就職ガイダンスへ参加するとともに、広島市立看護専門学校を始めとする看護師養成施設を訪問し、連携強化及び受験生の確保について協力を依頼した。 ○ 優秀な人材を早期に確保するため、平成29年度から推薦試験を導入した。 ○ 合格後の採用辞退をできるだけ少なくするため、試験の合格者を対象として、合同懇談会を実施した。 	

中期計画	カ 看護師等の安定的な職場定着の推進	事業年度評価結果（小項目）			
	看護師等の職場への定着を図るため、意欲的に働くことができる働きやすい職場環境づくりや指導体制の充実に取り組みます。				
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師の負担を軽減し、安定的な職場定着を推進するため、看護補助者の業務に身体介助業務を加えるなどの業務の見直しを行った。 ○ 子育てと仕事との両立を支援するため、育児休業から復帰する際、個別・丁寧な面談を行い、育児短時間勤務制度の周知を図った。 ○ 平成26年度から平成28年度まで配置した看護総合アドバイザーと各病院の看護部長等が毎月看護アドバイザー会議を行い、現状と課題を協議し、その中で指導体制についても検討を行い、4病院間の研修の企画等を進めた。 	

中期計画	キ 病院間の人事交流の推進				
	各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の人事交流を推進します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <p>○ 各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の異動を行った。</p>	<p>関連指標</p> <p><参考実績></p> <p>病院間の異動者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>8人</td> <td>6人</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>7人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>8人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2人</td> <td>6人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1人</td> <td>3人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>-</td> <td>2人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>-</td> <td>1人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>医療相談員</td> <td>-</td> <td>1人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20人</td> <td>19人</td> <td>16人</td> <td>31人</td> <td>86人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計	看護師	8人	6人	4人	3人	21人	薬剤師	7人	6人	5人	8人	26人	診療放射線技師	4人	4人	4人	6人	18人	理学療法士	-	-	2人	6人	8人	作業療法士	-	-	1人	3人	4人	医療ソーシャルワーカー	-	-	-	2人	2人	歯科衛生士	-	-	-	1人	1人	臨床検査技師	1人	1人	-	2人	4人	臨床工学技士	-	1人	-	-	1人	医療相談員	-	1人	-	-	1人	計	20人	19人	16人	31人	86人
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合計																																																																				
看護師	8人	6人	4人	3人	21人																																																																				
薬剤師	7人	6人	5人	8人	26人																																																																				
診療放射線技師	4人	4人	4人	6人	18人																																																																				
理学療法士	-	-	2人	6人	8人																																																																				
作業療法士	-	-	1人	3人	4人																																																																				
医療ソーシャルワーカー	-	-	-	2人	2人																																																																				
歯科衛生士	-	-	-	1人	1人																																																																				
臨床検査技師	1人	1人	-	2人	4人																																																																				
臨床工学技士	-	1人	-	-	1人																																																																				
医療相談員	-	1人	-	-	1人																																																																				
計	20人	19人	16人	31人	86人																																																																				

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- 2 人材の確保、育成
 (2) 事務職員の専門性の向上

中期目標	医療制度改革や診療報酬改定、医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため、戦略的な病院経営を企画・立案できる事務職員を確保するとともに、研修の充実などにより専門性の向上を図ること。		
中期計画	2 人材の確保、育成 (2) 事務職員の専門性の向上 ア 病院経営に関する知識・経験を有する人材の民間等からの採用 事務長をはじめとする事務職員について、病院経営や医療事務等に精通した人材の民間等からの採用について検討します。		
	事業年度評価結果（小項目）		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	3	3	3

【主な取組】

- 平成26年度及び平成27年度採用者について病院勤務経験のあるプロパー事務職員を採用した。
- 平成29年度に医療事務に係る専門知識を有する職員を確保するため、医事業務の管理職としての勤務経験がある者を採用した。

中期計画	イ 法人職員の計画的な採用と育成 ・ 広島市からの派遣職員を法人が採用する職員に段階的に切り替え、病院経営、医療事務に係る専門知識を有する職員の確保を図ります。 ・ 病院事務に関する専門研修への参加、各市立病院の事務職員同士の研修や情報交換を通じて事務職員の専門性の向上を図ります。		
	事業年度評価結果（小項目）		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	3	3	3

【主な取組】

- 広島市からの派遣職員を法人が採用する職員に段階的に切り替えるため、病院経営及び医療事務に係る専門知識を有する職員を採用する等の人材の確保に努めた。
- 事務職員に対しては、本部事務局が新規採用職員研修を実施したほか、各病院で医療クランクを対象とした実務研修、医事課職員を対象とした診療報酬請求、DPC（診断群分類包括医療制度）の分析に関する研修などを実施し、専門性の向上を図った。
- 理事長の特命により「プロパー教育委員会」を設置し、事務職員の研修体系についての検討を実施した。

関連指標

<参考実績>

(法人採用職員数) (事務職)

(単位：人)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	計
法人採用人数	9 (9)	11 (8)	7 (6)	7 (4)	34 (27)
派遣者数	79	71	65	61	—

※ () 内の数値は、市派遣職員からの切替数

中期計画	ウ 経営コンサルタント等の活用 効果的な経営戦略を企画立案するため、必要に応じて医療経営コンサルタント等の活用を検討します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療報酬の改定等に適切に対応するため、診療報酬の請求や病院経営に必要なデータ分析に関する知識等を有する専門業者を活用した。 ○ 専門講師を招へいし、診療報酬改定に係る研修会等を実施した。
--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 人材の確保、育成

(3) 研修の充実

中期目標	<p>ア 医療スタッフの専門性や医療技術の向上を図るため、院内研修の充実や各種学会・研修会への参加、派遣研修など多様な研修機会の拡充を図ること。また、各種の資格取得のための研修参加を促進すること。</p> <p>イ 教育研修機能の充実を図り、臨床研修医及び後期研修医を積極的に受け入れること。また、広島市立看護専門学校やその他の関係教育機関等との連携を強化し、優れた看護師等の医療スタッフの確保、育成に努めること。</p>													
中期計画	<p>2 人材の確保、育成</p> <p>(3) 研修の充実</p> <p>ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり</p> <p>院内研修の充実、各種学会・研修会への参加の促進、新たな派遣研修の創設など、多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくりに取り組みます。</p>													
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業年度評価結果（小項目）</th> </tr> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			事業年度評価結果（小項目）				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3
事業年度評価結果（小項目）														
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度											
3	3	3	3											

【主な取組】

- 新規採用者に対して、オリエンテーションを実施するとともに、分野ごとに医療現場で一日も早く戦力として働くことができる人材の育成を目的とした研修を実施した。
- 医療スタッフが日々高度化する医療知識及び技術を身に付けていくため、がん研修会やがんセミナー、基礎看護技術研修会、臨床検査研修会など専門分野に関する研修会、多職種を対象とした感染対策研修会、リスクマネジメント研修会等を実施した。
- 全職員を対象として、接遇研修やメンタルヘルス研修を実施した。
- 広島市民病院では、産業カウンセラーによる管理者向け「メンタルヘルス研修」を実施した。
- 安佐市民病院では、新専門医制度において内科及び総合診療科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、その他の科に関しては広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を行った。
- リハビリテーション病院では、地域リハビリテーション支援及び医療介護連携を目的とした院外講師による研修会を、また安佐南警察署の指導の下に、不審者対応を想定した防犯訓練を実施した。
- 国内の学会や研修会等への参加を進めるだけでなく、国際規模の学会で、市立病院における治療内容等を発表したり、世界レベルの最新の知見に触れる機会を与えるため、国際学会への派遣も行った。
- 4病院合同のメンタルヘルス研修会を開催した。

中期計画	イ 資格研修参加の促進 専門資格取得のための教育研修への参加を支援します。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】 ○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し、認定看護師等の資格取得を促進した。	関連指標 ＜参考実績＞									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>認定看護師等数 (平成29年度末時点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>認定看護師 27名</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>認定看護師 7名</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>認定看護師 4名 療法士 2名</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	認定看護師等数 (平成29年度末時点)	広島市民病院	認定看護師 27名	安佐市民病院	認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名	舟入市民病院	認定看護師 7名	リハビリテーション病院
区 分	認定看護師等数 (平成29年度末時点)									
広島市民病院	認定看護師 27名									
安佐市民病院	認定看護師 18名 特定行為研修修了者 1名									
舟入市民病院	認定看護師 7名									
リハビリテーション病院	認定看護師 4名 療法士 2名									

中期計画	ウ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実 ・教育担当看護師を配置し、新規採用の看護師への指導や研修の充実を図ります。 ・広島市立看護専門学校や他の関係教育機関等からの看護実習生等の受入れを拡大するため、教育研修機能の充実を図ります。	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、教育担当看護師が新規採用看護師等の教育担当として指導及び研修を行った。 ○ 看護実習生を指導するに当たり、指導者に広島県の実習指導者講習会を受講させ、実習指導する看護師の教育に取り組んだ。 ○ 新規採用者に対する研修に力を注いだほか、中途採用者及び市立病院間の異動者に対しても研修を実施した。 ○ 看護師長、主任看護師等に対する管理研修を年に複数回実施するなど充実を図るとともに、大学等外部からの講師を招き、講演会及び研修会を実施した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

3 弾力的な予算の執行、組織の見直し

- (1) 弾力的な予算執行
- (2) 契約手法及び契約に係る執行体制の見直し
- (3) 施設整備に係る執行体制の見直し
- (4) 病院の維持管理体制の見直し

中期目標	地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、弾力的な予算執行、多様な契約手法の導入を進めるとともに、医療需要等の変化に即して、迅速・柔軟に組織や人員配置を見直すこと。										
中期計画	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し 地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、弾力的な予算執行、多様な契約手法の導入を進めるとともに、医療需要等の変化に即して、迅速・柔軟に組織や人員配置を見直します。										
	(1) 弾力的な予算執行 ・機動力のある予算措置や病院実態に即した弾力的な予算執行を行い、効率的かつ効果的な業務運営を行います。 ・各病院長への適切な権限配分に基づき、病院長のリーダーシップの下で迅速かつ的確な予算執行を行います。										
事業年度評価結果（小項目）											
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">平成26年度</th> <th style="width: 25%;">平成27年度</th> <th style="width: 25%;">平成28年度</th> <th style="width: 25%;">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	2	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度								
3	2	3	3								

【主な取組】

- 事業の進捗や病院の実情に応じて、医療機器等を前倒して購入する等弾力的な予算執行を行った。
- 予算編成時に、各病院長の意見を反映させて、医療機器整備計画を病院の実態や必要性に応じて見直した。

中期計画	<p>(2) 契約手法及び契約に係る執行体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期・複合契約の対象範囲の拡大や価格交渉落札方式などの多様な契約手法を導入し、競争性の向上及び費用の縮減を図ります。 ・公正性・透明性を損ねない範囲で、物品調達等に係る随意契約の適用範囲を拡大し、契約事務の機動性の向上及び効率化を図ります。 ・本部事務局に契約事務を統括する部署を設置し、契約事務の適正化及び効率化を図ります。 	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 3千万円以上の高額医療機器の一部について、医療機器の調達と保守点検業務を合わせた長期・複合契約で発注した。 ○ 医事業務の委託について、スムーズな移行期間を確保するため、業務履行実施前の準備期間を考慮した長期契約に見直した。また、質の向上を目的として公募型プロポーザル方式を採用した。 ○ 契約事務の機動性の向上及び効率化の観点から、工事について随意契約の上限額を250万円から500万円に引き上げた。 ○ 価格交渉落札方式制度を制定し、2千万円以上の高額医療機器の調達を対象として実施した。 ○ 後発医薬品の採用拡大について、先発医薬品から後発医薬品への切替えを推進した。 ○ 法人化に伴い、契約事務の適正化及び効率化を図るため、本部事務局に契約事務を統括する「契約課」を設置した。

中期計画	<p>(3) 施設整備に係る執行体制の見直し</p> <p>本部事務局に建設工事等の発注を担当する部署を設置するとともに、積算、監督及び検査業務の一部を民間委託することにより、各病院の施設整備を迅速、適切に行うための体制を整備します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】
<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人化に伴い、各病院の施設整備を行う部署として、本部事務局に「施設整備課」を設置し、各病院の施設整備を行うよう体制を整備した。 ○ CM方式を活用し、建設工事等の積算、検査などの業務を民間委託とするとともに、各病院からの要望による施設整備を行った。

中期計画	<p>(4) 病院の維持管理体制の見直し</p> <p>委託業者を含めた病院の維持管理関係者の連絡会議を設置するなど、病院内の各種業務間の連携の強化を図り、維持管理がより効果的、効率的に行えるよう病院の維持管理体制の見直しに取り組みます。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 4病院の維持管理関係者会議を開催するとともに、建物総合管理業務についての連絡会議において、建物総合管理委託での維持管理体制の状況と効果を確認した。
- 各病院の施設・設備の老朽度の調査を行い、中長期病院施設設備改修計画（長寿命化計画）を策定し、効果的、効率的に長寿命化工事を実施した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築

中期目標	病院で働く医療スタッフ等が意欲的に働くことができるよう、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の勤務実態や貢献度が適正に評価される人事・給与制度を構築すること。										
中期計画	<p>4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり</p> <p>(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築</p> <p>職員の給与制度は、広島市に準じたものとします。また、病院職員が意欲的に働くことができるよう、法人の経営状況を踏まえつつ、勤務実態に応じた手当の新設など、職員の勤務実態や貢献度が適正に評価される人事・給与制度を構築します。</p>										
	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">平成26年度</th> <th style="width: 25%;">平成27年度</th> <th style="width: 25%;">平成28年度</th> <th style="width: 25%;">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">3</td> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">3</td> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">3</td> <td style="text-align: center; font-size: 24px;">3</td> </tr> </tbody> </table>			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度								
3	3	3	3								

【主な取組】

- 給与制度について、広島市人事委員会の勧告を踏まえ、広島市と同様に給与制度の改定を行った。
- 組織規模及び業務分担に応じたポストの増設、勤務実態に応じた手当の新設など、職員の職責を明確化し、意欲的に働くことのできる人事・給与制度の見直しを行った。
- また、手当の新設及び見直しについて、各病院の副院長については、管理職業務以外に長時間の診療にも関わっている実態を考慮し、特殊勤務手当を新設するとともに、手術室に勤務する看護師等については、深夜又は休日の緊急手術に従事した場合の負担に対する手当の新設などを行った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減

中期目標	病院の実態に即して、医療スタッフの業務を補完する補助職員の採用等により、適切な役割分担の下、医療スタッフの負担軽減を図ること。		
中期計画	<p>4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり</p> <p>(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減</p> <p>医療クレーンや看護補助者等、医療スタッフが行う業務を補助する職員を増員し、医療スタッフの負担軽減を図るとともに、迷惑患者等に対応する専門職員を配置するなど、業務に専念できる職場環境の整備に取り組みます。</p>		

事業年度評価結果（小項目）

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

【主な取組】

- 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成27年12月から業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始し、業務員を介助業務員に順次移行した。
- リハビリテーション病院において、重症患者の受入体制を強化するため、段階的に嘱託職員である病棟介護士の正規職員化及びその拡充に努めた。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

(3) ワーク・ライフ・バランスの推進

中期目標	子育て支援の充実など、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むこと。				
中期計画	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり				
	(3) ワーク・ライフ・バランスの推進				
	ア 子育てと仕事との両立の支援 育児短時間勤務制度の維持や院内保育の充実など、職員の子育てと仕事との両立を支援します。				
		事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

- 子育てと仕事との両立を支援するため、育児休業から復帰する際、個別・丁寧な面談を行うとともに、育児短時間勤務制度の周知を図った。
- これまで正規職員のみ認められていた育児のための部分休業、介護時間を嘱託職員、臨時職員にも拡大した。
- 子育てと仕事との両立を支援するため、夜間保育について検討を行い、平成30年度から院内保育を利用している乳幼児の兄弟姉妹についても夜間保育を利用できるよう対象者を拡大した。

中期計画	<p>イ 時間外勤務の削減</p> <p>時間外勤務、休日勤務の削減等に取り組み、職員の健康保持や子育てを支援します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員には産業医による面談を受けさせることで、超過勤務が心身に与える悪影響や時間外削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートを行った。

中期計画	<p>ウ メンタルヘルス対策の実施</p> <p>職員の心の健康対策として、過重労働による健康障害の防止のための教育・研修の実施、相談体制の整備、職場復帰支援等を推進します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

【主な取組】

○ 各病院においてメンタルヘルス部会を開催し、メンタルヘルスに関する様々な問題点について議論し、職員間での意識啓発を図った。

○ 職員のストレスチェックを行い、職員のメンタル状況を把握するとともに、相談窓口の周知を図り、産業医、保健師等が必要な相談・助言を行った。

○ 職員のハラスメントについて、早期に対応し、その被害の防止を図るため、ハラスメント対策基本方針及びハラスメント相談対応マニュアルを作成し、ハラスメント相談員を設置するとともに、職員への周知を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

5 外部評価等の活用

中期目標	会計監査人による監査、広島市病院事業地方独立行政法人評価委員会による評価等に加え、患者等利用者の意見を踏まえ、法人の業務運営の改善を図ること。											
中期計画	<p>5 外部評価等の活用</p> <p>会計監査人による監査等</p> <p>会計監査人による監査、評価委員会による評価等の結果を踏まえ、速やかに対応を検討し、必要な業務運営の改善に取り組みます。また、病院運営の透明性を高めるため、その結果や対応について、ホームページ等を活用して積極的に公開します。</p>	<p>事業年度評価結果（小項目）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">平成26年度</th> <th style="width: 25%;">平成27年度</th> <th style="width: 25%;">平成28年度</th> <th style="width: 25%;">平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> </tbody> </table>			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	3	3	3	3
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度									
3	3	3	3									

【主な取組】

- 会計監査人による、病院の医薬品等の棚卸の立会い、財務諸表等の決算に係る審査等を行った。
- 監事監査規程に基づき、監事による4病院の实地監査及び書類監査を行った。
- 会計規程に基づき、本部事務局職員が、毎月、本部事務局及び各病院において、現金残高の確認等の内部監査（自主監査）を実施した。
- 会計監査、監事監査の結果は、理事長が報告を受けた後、理事会へ説明し、及び報告した上で、広島市へ報告するとともに公表した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

経営の安定化の推進

- (1) 中期目標期間中の経常収支の黒字の維持
- (2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応
- (3) 経費の削減
- (4) 収入の確保

中期目標

ア 法人の経営努力だけでは維持することが困難な公共性の高い医療を提供するために必要となる経費については、引き続き広島市が負担するが、広島市経費負担後の中期目標期間中の経常収支の黒字を維持すること。

イ 適正な在院日数や病床の管理、診療報酬改定への的確な対応、適切な未収金対策に引き続き取り組むとともに、長期契約など多様な契約手法の導入による調達コストの削減など、地方独立行政法人制度の利点を生かした効率的な病院運営を行うこと。

中期計画

経営の安定化の推進

(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字の維持

公共性の高い医療を提供するために必要な広島市からの運営費負担金の交付の下、中期目標期間中の経常収支の黒字を維持します。

【目標値】 (単位：%)

区分	平成24年度実績	平成29年度目標値
経常収支比率	102.5	100.6

※経常収支比率 = (経常収益 / 経常費用) × 100

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	2	2	2

【主な取組】

- 毎月開催する経営会議において、各病院の経営指標の現状と課題及びそれらの対応策を報告し、意見交換を行って健全な病院運営を行うよう努めた。
- 平成28年10月には本部事務局が収支改善アイデアを募集し、収支の改善が早期に見込まれ、その効果が大きいと考えられるものについて、実現できるよう各病院で検討を進めた。

関連指標

<目標値に対する実績>

【実績】 (単位：%)

区分	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績
経常収支比率	102.2	98.9	98.4	99.6

※経常収支比率 = (経常収益 / 経常費用) × 100

中期計画	<p>(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応</p> <p>各病院の診療科別、部門別の収支状況を、常時把握、分析し、迅速に対応策を検討、実施します。</p>	事業年度評価結果（小項目）			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		3	3	3	3

<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成27年度の病院総合情報システムの更新又は導入に合わせ、診療科別・部門別などの原価計算システムを導入した。 ○ 地域における広島市民病院の診療実績を把握するため、厚生労働省が公表した平成27年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果及び評価」最終報告概要に基づき、全国、中四国、広島県内及び広島医療圏内におけるDPC請求病院との各種比較（症例件数、在院日数、再入院率、手術等治療実績、救急搬送件数及び転帰状況等）を行い、資料に取りまとめ、院内に配付した。 ○ 広島市民病院及び安佐市民病院では術式ごとのコスト等を可視化し、手術室及びカテーテル検査室の運用の効率化及び診療材料費の再検討を行うことにより収支状況の改善を図るため、外部委託による稼働状況の分析や診療科別原価計算の検討を行った。 ○ また、外部委託による手術材料のキット化を進め、手術室業務の効率化と負担軽減を図った。また、「手術室運営委員会」において、外部委託による稼働状況の分析や診療科別原価計算による収支状況等の報告を行い、医師のコスト意識向上を図った。
--

中期計画	(3) 経費の削減	<p>・長期契約など多様な契約手法の導入により競争性を高め、調達コストの削減を図ります。</p> <p>・各病院で使用する医薬品や診療材料の品目の共通化を進め、共同購入の拡大等に取り組みます。</p> <p>・診療経費の節減や患者負担の軽減の観点から、後発医薬品の採用拡大に取り組みます。</p> <p>【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成24年度実績</th> <th>平成29年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>7.1</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>10.0</td> <td>16.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>11.9</td> <td>17.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>20.6</td> <td>22.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※採用品目比率＝(後発医薬品目数/医薬品目数総数)×100</p> <p>・医療の質の向上、医療安全の確保、患者サービスの向上などに十分に配慮した上で、職員の適正配置、時間外勤務の削減などを行い、適正な人件費の維持に努めます。</p> <p>【目標値】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度予算</th> <th>平成29年度目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>54.9</td> <td>54.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※給与費対医業収益比率＝(給与費/医業収益)×100</p> <p>※給与費は、退職手当を除く。</p> <p>※第1期中期目標期間の給与費対医業収益比率は、法人化による運営体制強化のため、職員の増員等に積極的に取り組むことから、平成26年度予算の比率と比較することとした。</p>	区分	平成24年度実績	平成29年度目標値	広島市民病院	7.1	14.0	安佐市民病院	10.0	16.0	舟入市民病院	11.9	17.0	リハビリテーション病院	20.6	22.0	区分	平成26年度予算	平成29年度目標値	給与費対医業収益比率	54.9	54.1	<p>事業年度評価結果(小項目)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	4	3	3	4
	区分		平成24年度実績	平成29年度目標値																												
	広島市民病院		7.1	14.0																												
	安佐市民病院		10.0	16.0																												
	舟入市民病院		11.9	17.0																												
	リハビリテーション病院		20.6	22.0																												
	区分		平成26年度予算	平成29年度目標値																												
	給与費対医業収益比率		54.9	54.1																												
	平成26年度		平成27年度	平成28年度	平成29年度																											
	4		3	3	4																											

【主な取組】	○ 回診用X線撮影装置等の購入及び保守点検業務について、長期・複合契約により一括発注し、調達コスト及び管理コストの削減を図った。	<p>関連指標</p> <p><目標値に対する実績></p> <p>後発医薬品採用品目比率(各病院3月末実績) (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度実績</th> <th>平成27年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>14.1</td> <td>15.4</td> <td>15.6</td> <td>16.1</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>15.5</td> <td>17.0</td> <td>20.2</td> <td>18.1</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>17.3</td> <td>21.6</td> <td>23.0</td> <td>24.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>23.3</td> <td>26.1</td> <td>27.2</td> <td>27.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※採用品目比率＝(後発医薬品目数/医薬品目数総数)×100</p> <p>(単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度実績</th> <th>平成27年度実績</th> <th>平成28年度実績</th> <th>平成29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給与費対医業収益比率</td> <td>52.2</td> <td>52.6</td> <td>53.7</td> <td>53.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※給与費対医業収益比率＝(給与費/医業収益)×100</p> <p>※給与費は、医業費用の給与費から退職給付費用を除いた額</p>	区分	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	広島市民病院	14.1	15.4	15.6	16.1	安佐市民病院	15.5	17.0	20.2	18.1	舟入市民病院	17.3	21.6	23.0	24.5	リハビリテーション病院	23.3	26.1	27.2	27.0	区分	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	給与費対医業収益比率	52.2	52.6	53.7	53.4
	区分		平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績																															
	広島市民病院		14.1	15.4	15.6	16.1																															
	安佐市民病院		15.5	17.0	20.2	18.1																															
	舟入市民病院		17.3	21.6	23.0	24.5																															
	リハビリテーション病院		23.3	26.1	27.2	27.0																															
	区分		平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績																															
	給与費対医業収益比率		52.2	52.6	53.7	53.4																															
	○ 複数病院における共同購入については、予算編成時に各病院に働きかけを行うとともに、同一病院内で調達する複数の医療機器については、可能な限り同一規格に統一することでスケールメリットを生かした価格交渉を行った。																																				
	○ 診療材料の共通化にあたり、循環器内科で協議を行った結果、広島市民病院及び安佐市民病院において原則最安値の診療材料を使用することとした。																																				
○ 後発医薬品の採用拡大について、先発医薬品から後発医薬品への切替えを推進した。																																					
○ 職員の適正配置等により、適正な人件費の維持に努めた。																																					

(4) 収入の確保

- ・今後の疾病動向や診療報酬改定の情報収集、分析を行い、それらに迅速かつ的確に対応した病院経営を行います。
- ・地域の医療機関との役割分担と連携の下、適正な在院日数や病床の管理を行い、診療報酬収入の確保に努めます。

【目標値】病床利用率 (単位：%)

区 分	平成 24 年度実績	平成 29 年度目標値
広島市民病院 (一般病床)	96.4	96.4
安佐市民病院	87.7	88.6
舟入市民病院 (内科、外科)	72.9	80.0
リハビリテーション病院	92.0	96.0

※病床利用率 = (入院延べ患者数 / 診療日数) ÷ 病床数

※入院延べ患者数は退院日を含む。

※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率

- ・診療報酬制度に基づく適正な診療、事務処理を徹底し、請求漏れの解消、査定減 (診療報酬を支払基金等に請求した際の減額) の縮減を図ります。
- ・収入の確保及び公平性の観点から、医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組めます。

【目標値】医療費個人負担分の収納率 (単位：%)

区 分	平成 24 年度実績	平成 29 年度目標値
広島市民病院	94.4	95.0
安佐市民病院	93.3	94.0
舟入市民病院	91.1	92.0
リハビリテーション病院	99.0	99.0

※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率

事業年度評価結果 (小項目)

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
3	3	3	2

中期計画

【主な取組】

- 診療報酬改定に関する調査・分析・検証を行うとともに、施設基準取得のため、職員配置等の検討や必要な研修へ医師等を派遣するなど、収入確保に向けた取組を進めた。
- 診療報酬の支払基金等への請求に当たっては、医師及び事務職員による診療の妥当性や算定誤りのチェックを行い、適正な請求に努めている。また、査定資料を医師に情報提供し、請求漏れや査定減の縮減に努めている。
- 円滑な入退院調整を図るため、入院支援室の設置や増員などにより、医療支援センター等の体制を強化した。
- 従前から医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組んだ。

関連指標

<目標値に対する実績>

区 分	病床利用率 (単位：%)			
	平成 26 年度 実績	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
広島市民病院 (一般病床)	95.6	96.4	95.8	96.7
安佐市民病院	87.4	84.0	85.7	88.5
舟入市民病院 (内科、外科)	78.8	76.6	82.9	76.1
リハビリテー ション病院	95.7	96.1	96.5	95.1

※病床利用率 = (入院延べ患者数 / 診療日数) ÷ 病床数

○ 舟入市民病院では、人間ドックのパンフレットを更新するなど広報に努め、健診者数の増を図った。また、平成 30 年度に向けて、新たに公立学校共済組合の健診実施機関となるとともに、オプションの充実についての検討を行った。

※入院延べ患者数は退院日を含む。

※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率

医療費個人負担分の収納率 (単位：%)

区 分	平成 26 年度 実績	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
広島市民病院	95.6	95.5	96.6	95.7
安佐市民病院	94.9	94.0	94.3	94.9
舟入市民病院	92.0	92.0	93.5	93.3
リハビリテー ション病院	96.9	95.6	96.8	95.7

※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置
安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

中期目標 耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等への対応を図るため、安佐市民病院の建替えを進めること。また、建替えに当たっては、広島市と十分に連携して取り組むこと。

1 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

(1) 基本的な考え方

耐震性の向上と老朽化・狭あい化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。

建替えに当たっては、高度で先進的な医療機能、災害拠点病院としての機能及びびへき地医療機関としての機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を広島市、関係機関と協議しながら、現在の北館に整備します。

(2) 整備する場所

ア 高度で先進的な医療機能等の主要な医療機能

広島市安佐北区亀山南一丁目「荒下地区」(敷地面積 約 40,000 m²)

イ 日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等

広島市安佐北区可部南二丁目「現在地」(敷地面積 約 10,000 m²)

2 荒下地区に整備する病院

(1) 担うべき医療の基本的な方向性

ア 高度で先進的な医療の拡充

イ 災害拠点病院としての機能の拡充

ウ 県北西部地域等の病院支援と患者の受入れの拡充

(2) 整備スケジュール

今期中期計画				次期中期計画			
26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	←	→	←	→	←	→	●
	基本計画	基本設計	実施設計		建設工事		H34年春開設 (見込み)

事業年度評価結果 (小項目)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3	3	3	3

(3) 整備費

(単位：百万円)

区 分	今期中期計画				次期中期計画	合計
	27年度	28年度	29年度	(計)	(30年度~33年度)	
基本計画	20			(20)		20
建 替 整 備 費	基本設計	180		(180)		180
	工事監理等	60	50	(110)	820	930
	実施設計			400	(400)	400
	建設費				20,490	20,490
	小計	240	450	(690)	21,310	22,000
	土地購入費				1,920	1,920
	医療機器購入費				7,330	7,330
		240	450	(690)	30,560	31,250
合計	20	240	450	(710)	30,560	31,270
財 源	運営費負担金	120	10	(130)	575	705
	長期借入金			430	(430)	29,210
	自己財源	20	120	10	(150)	575
	補助金(含地)				200	200

(注) 平成29年度以降は、消費税率(地方消費税率を含む。)10%として整備費を見込んでいる。

3 現在の北館に整備する病院

(1) 担うべき医療の基本的な方向性

日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等の拡充

(2) 整備スケジュール

今期中期計画				次期中期計画			
26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
				← 整備計画	← 設計	← 改修工事	← H34年春開設 (見込み)

(3) 整備費

(単位：百万円)

区 分	次期中期計画 (30年度~33年度)	
整 備 費	基本設計	15
	工事監理等	15
	実施設計	40
	建設費	920
合計	990	
財 源	運営費負担金	7
	長期借入金	975
	自己財源	8

【主な取組】

- 建替え方針について広島市と連携して検討し、広島市において、平成27年9月に、高度で先進的な医療機能等を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館に整備する機能分化整備方針が決定された。
- この機能分化整備方針を受けて、平成28年度に安佐市民病院整備室を設置し、執行体制の強化を図った。
また、設計、工事等の各段階におけるスケジュール、コスト、品質管理等のマネジメントを民間委託するCM（コンストラクションマネジメント）方式を導入し、限られた人員で業務を推進できる体制を構築することで、執行体制の効率化を図った。
- 次のとおり建替えの作業を進めた。
 - ① 荒下地区に整備する病院
 - ・基本計画を平成28年10月に策定した。
 - ・基本設計を平成30年3月に完了させた。なお、基本設計は、当初、平成30年1月の完了予定であったが、各医療部門や病棟の配置、面積の確定に当たり、医療スタッフがより具体的なイメージを持って検討できるようにするため、実施設計において行う詳細な諸室の計画の一部を併せて行うことにしたため、この実施設計に係る期間を基本設計に含め、同年3月末まで延長して行った。
 - ② 現在の北館に整備する病院
 - ・広島市からの要請により安佐医師会が設置・運営することになったことを受け、広島市、安佐医師会及び法人の3者による「安佐市民病院の北館に整備する病院の準備調整会議」を開催し、病院の医療機能や整備計画について検討を行った。